

# アジア調査会

— 60年の歩み —

**AARC**

The Asian Affairs Research Council

一般社団法人 **アジア調査会**

# 創立

## ● 創立

アジア調査会は東京オリンピックの年——1964 (昭和39)年9月8日、任意団体として発足しました。その後の歩みは次の通りです。

- 1967 (昭和42)年 12月5日、社団法人
- 1989 (平成元年)年 創立25周年
- 1994 (平成6)年 創立30周年
- 2012 (平成24)年 4月1日、一般社団法人
- 2014 (平成26)年 創立50周年
- 2024 (令和6)年 創立60周年

会員数	法人会員	約60
	個人会員	約40
	計	約100 (2025年)

## ● 吉田茂・初代会長(元首相)のあいさつ

私は、かねてから東洋問題、ことに中国問題が世界問題であり、この問題を解決する国が、いわゆる世界の大事を制するような国であろうと考えている。ぜひとも、アジア調査会が目的を達するよう切に希望する。どうか、諸君のご協力を願いたい。(1964年9月8日の創立総会)

吉田茂元首相は、当時すでに政界を引退し、「日米協会」会長を除いて、一切の民間団体の役職を辞任していましたが、アジア調査会の会長推戴の懇請には快諾をいただきました。戦後日本を復興した首相であり、わが国外交界の長老が、いかに中国をはじめアジアを重視していたかを示すものといえましょう。

## ● 池田勇人首相の祝辞

私も、外交について広く国内の意見を聞くため、外交懇談会を設けたが、やはり、内閣でやるのはうまくいかない。アジア調査会のような各方面の権威ある専門家にお集まり願うことができなかった。「中国問題は日本人でなければわからない」という外国の期待に対しても、ここにアジア調査会が発足し、各界各層の人が集まって、中国及びアジア諸国の研究をされることは、まことにありがたい(創立総会)

池田首相はアジア調査会の設立に熱意と協力を示しました。創立総会の翌日、東京・築地のがんセンターに入院、翌1965年8月に死去しました。このあいさつは公開の席上での池田首相の最後の演説となりました。



創立総会であいさつする吉田茂会長(中央)。左から池田勇人首相、東畑精一副会長、上田常隆毎日新聞社社長、石井光次郎代議士(1964年9月8日、東京・日比谷の帝国ホテルで)

## ● 創立総会の出席者

(左から) 工藤信一良(毎日新聞社副社長)、住本利男(同西部本社代表)、河野一郎(国務相)、大野勝巳(前駐英大使)、原吉平(ニチボー社長)、水上達三(三井物産社長)、松本重治(国際文化会館専務理事)、高田元三郎(元毎日新聞編集総長)、藤山愛一郎(元外相)、川島正次郎(自民党副総裁)、あいさつする池田勇人(首相)、東畑精一(アジア経済研究所長、元東京大学教授)、吉田茂(元首相)、小泉信三(元慶應義塾長)、上田常隆(毎日新聞社社長)、石井光次郎(元



## ●目的

アジア調査会は、毎日新聞社が中心となって、政界、経済界、学界など各方面の協力を得て設立されました。

目的は、日本にとって重要な中国をはじめアジア諸国の調査研究、関係当局への建議と、国民外交の展開及び知識の普及啓発です。

現在では、広くアジア・太平洋に関する政治、経済、外交、学術、文化等の諸問題についての調査研究と知識、情報の提供と関連事業を行っています。



「吉田学校」の師弟。(左から池田首相、吉田元首相、後ろ姿は佐藤栄作氏。創立総会後のパーティーで)

## 五つの柱

- 1 内外著名人を招いての講演会
- 2 大学教授、研究者による研究調査と報告
- 3 『アジア時報』発行などの出版活動
- 4 アジア・太平洋賞
- 5 国際シンポジウムなど関連事業の展開

## ●アジア調査会と毎日新聞

私は主筆主幹時代、毎日新聞の大きな未来的舞台としてアジア調査会の設立を計画した。この組織の頭には、吉田茂氏以外は考えていなかった。世界の吉田茂をアジア調査会長に

なって頂く、ということは大変であった。当時総理だった池田勇人氏に相談した。池田さんはこの計画に、大変共鳴され、吉田氏説得を引き受けてくれた。(田中香苗「吉田さんと東畑さんとアジア調査会」『アジア時報』1983年9月号より)



アジア調査会の発案者の田中香苗・毎日新聞社編集主幹(のちの社長、会長)

→ 国務相、水野成夫(産経新聞社社長)、岩佐勉(富士銀行頭取)、和田博雄(社会党国際局長)、曾祿益(民社党外交委員長)、矢部貞治(前拓殖大学総長)、太田一郎(元外務事務次官)、山田久就(元駐ソ大使)、朝海浩一郎(前駐米大使)、北沢直吉(日本イラン会長)、石坂泰三(経団連会長)、佐藤栄作(前国務相)の各氏=肩書きはいずれも当時



# 講演会

(11～19頁に、講演会60年の記録)

## パイオニアとして

### ●著名外国人も招致

アジア調査会は、1964(昭和39)年の設立当初から、世界の著名人を積極的に招致して講演会を開催してきました。外国人招致に積極的だったのは、吉田茂会長時代からの伝統です。吉田会長は、神奈川県・大磯の邸宅に外国人ゲストを招待し、レセプションを開くなどして協力しました。

著名な外国人講演者は、英国の歴史学者、アーノルド・トインビー博士▽フランス元首相のフォール氏▽インドネシアのスハルト大統領▽中国研究者のオーエン・ラチモア氏▽中国の文明批評家、林語堂氏▽ヒューバート・ハンフリー元米国副大統領▽エドウィン・ライシャワー駐日米国大使▽ソ連共産党中央委員・人民代議員・最高会議議員のボリス・エリツィン氏▽ハーバード大学名誉教授のエズラ・ヴォーゲル氏ら、枚挙にいとまがありません。



地方創生相、石破茂氏(2015年1月)



自民党幹事長代理、安倍晋三氏(2005年7月)



外相、岸田文雄氏(2014年1月)



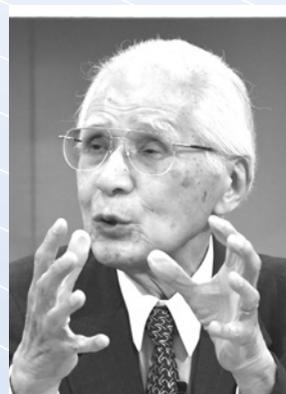
元首相、福田康夫氏(2011年2月)



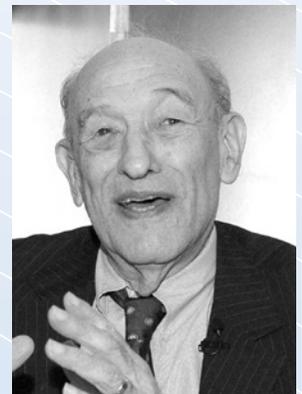
自民党政調会長、麻生太郎氏(2002年7月)



自民党幹事長、小沢一郎氏(1990年3月)



前国際司法裁判所判事、小和田恒氏(2018年10月)



ハーバード大学名誉教授、エズラ・ヴォーゲル氏(2019年11月)

## ボリス・N・エリツィン氏緊急特別講演会

主催 「エリツィン氏と語る会」実行委員会 東京放送・毎日新聞・社 日本外交協会  
社団法人アジア調査会



のちにロシア初代大統領になるボリス・エリツィン氏がソ連共産党中央委員・人民代議員・最高会議議員の時代に来日し、「ソ連のベレストロイカと日ソ関係」について東京と大阪で講演した(1990年1月16日、同18日)。

### ●『アジア時報』に詳細を収録

アジア調査会60周年となる2024年は、拓殖大学海外事情研究所教授の門間理良氏、国際通貨研究所理事長の渡辺博史氏、防衛大学校教授の岡田美保氏、アジア調査会会長の国分良成氏、元NHK解説副委員長・政治ジャーナリストの島田敏男氏、防衛大学校長・東京大学名誉教授の久保文明氏が講演しました。「超党派的に正確な認識と見識を持つ」(設立当時の上田常隆・毎日新聞社長)ことを掲げており、会員だけでなく、メディアにも広く公開してきました。講演と質疑応答は『アジア時報』に収録され、詳細な記録をたどることができます。

# シンポジウム

毎年1～2回、時宜に合ったテーマを選び、シンポジウムを開催しています。

2024年は、アジア調査会60周年記念シンポジウム「世界は転回する～米大統領選挙後のアジアを占う」が、米先端政策研究所上級研究員のグレン・S・フクシマ氏らが参加して、アジア調査会主催、毎日新聞社後援、慶應義塾大学東アジア研究所の共催で開催されました。2022年には、米軍統治下にあった沖縄が日本に復帰して50年となるのを記念したシンポジウム「沖縄復帰50年を問い直す」が、玉城デニー・沖縄県知事らが参加して、毎日新聞社、琉球新報社、アジア調査会共催、BS-TBS後援で開催されました。

また台北駐日経済文化代表処の協力を得て、台湾の専門家が参加する国際シンポジウムを定期的に開催しています。2023年には、「台湾海峡の平和と安定 米中対立・ウクライナ戦争・日本の安保政策転換



シンポジウム「沖縄復帰 50 年を問い直す」＝東京都千代田区の日本記者クラブホールで2022年4月28日撮影

を見据えて」、2022年には、「東アジア国際秩序の来し方行く末 サンフランシスコ平和条約から70年」をテーマに開きました。

いずれも詳細は『アジア時報』などに掲載していません。



アジア調査会 60 周年記念シンポジウム「世界は転回する～米大統領選挙後のアジアを占う」＝東京都港区の慶應義塾大学で2024年11月27日撮影



国際シンポジウム「台湾海峡の平和と安定 米中対立・ウクライナ戦争・日本の安保政策転換を見据えて」＝東京都千代田区の日本記者クラブホールで2023年8月31日撮影

# アジア時報

1970（昭和45）年5月、『アジ調月報』の名前で創刊され、74（同49）年1月に『アジア時報』に改題されました。講演会の詳細のほか、オリジナルの連載が好評を博しています。

令和の代替わりの際に取材班キャップを務めた野口武則・毎日新聞政治部記者の連載が、『宮内官僚 森鷗外——「昭和」改元影の立役者』（角川新書）として2025年に出版されました。また、波多野登雄・国立公文書館アジア歴史資料センター長が3回寄稿した「沖縄「密約」の構図」は、改稿のうえ2024年刊行の著書『サンフランシスコ講和と日本外交』（吉川弘文館）に収録されました。

他にも、土山實男・青山学院大学名誉教授の「日本のリアリズム——日本は国際政治の現実をいかに把

握し、どう動いたか」、飯田和郎・アジア調査会理事の「上海・東亜同文書院 メディア人脈を考察する——

戦中・戦後の三つの『事件』から」、永田小絵氏翻訳の「中国史の舞台裏 葛兆光

歴史隨筆集」の連載や、及川正也・毎日新聞専門編集委員のアメリカ政治企画「定点観測」、坂東賢治・毎日新聞特別編集委員のコラム「チャイナ・ブリーフ」、金子秀敏・毎日新聞客員編集委員のコラム「中国観察」などが幅広い読者を得ています。



通巻 600 号に達した『アジア時報』2024年10月号

# 激動の世界を読む

## ● 毎日新聞とのコラボ企画「激動の世界を読む」

日本を代表する国際政治学者らがリレー執筆する大型企画「激動の世界を読む」が2016年からスタートしました。冷戦終結から四半世紀余を経て、激動する世界を最新のニュースを基に読み解きます。毎日新聞朝刊に毎月1回掲載され、さらに英訳を加えて『アジア時報』の巻頭を飾ります。

現在の執筆者は、国分良成・アジア調査会会長▽田中明彦・東京大学名誉教授▽廣瀬陽子・慶應義塾大学教授▽中西寛・京都大学教授▽酒井啓子・千葉大学特任教授▽中満泉・国連事務次長——の6人です。このうち国分、廣瀬、酒井の3氏はアジア・太平洋賞の受賞者です。世界の秩序はどのように変わろうとしているのか、その中で日本の針路をどう描けばいいのか。大型の時事コラムにご期待ください。



国分良成氏



田中明彦氏



廣瀬陽子氏



中西寛氏



酒井啓子氏



中満泉氏

# シンクタンク

アジア調査会の「調査・研究」を担うのがアジア研究委員会です。創立当初に存在したいくつかの研究会を1974（昭和49）年に統合して新設されました。初代委員長は坂本是忠・東京外語大教授で、神谷不二・慶應義塾大学教授、高坂正堯・京都大学教授、永井陽之助・東京工業大学教授が委員長を歴任し、その後、中嶋嶺雄・国際教養大学学長が長く委員長を務めてから、猪口孝・新潟県立大学学長が引き継ぎました。

アジア調査会は1968（昭和43）年2月の理事会で、中国をテーマとする初の常設委員会設置案を採択。3月28日に中国研究委員会が設置され、同日、初会合が開催されました。わが国が「北京か台北か」の選択を迫られ、国論が二分されていた時期でした。この委員会の研究活動は1972（昭和47）年の日中国交樹立までの4年間続きました。中国研究委員会の初代委員長は石川忠雄・慶應義塾大学教授で、幹事は永井陽之助、坂本是忠、中嶋嶺雄の3氏でした。その後、アジア研究委員会へと発展的に解消しました。

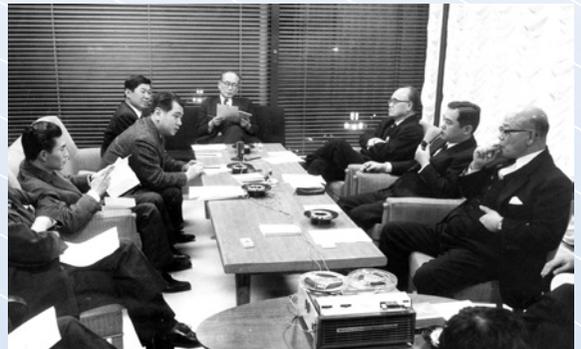
中国研究委員会に先立ち、1965（昭和40）年からは数人の学者、専門家に委嘱して「日本の国家利益と中国の国家利益」、「日本外交の前提条件」をテーマ

毎日新聞と『アジア時報』に掲載されるコラム「激動の世界を読む」の表紙イメージ。著者として廣瀬陽子氏の名前が掲載されている。記事のタイトルは「停戦の鍵握る中央アジア」である。

毎日新聞と『アジア時報』に掲載されるコラム「激動の世界を読む」

にした研究が行われました。成果は印刷に付され、会員や関係方面に配布されました。これが、アジア調査会の重視する事業活動「調査・研究」の先駆けになりました。

アジア研究委員会は現在、諸般の理由により活動を休止しており、新たなありようを模索しています。アジア研究委員会ではありませんが、2018～2022年には、毎日新聞が1981年に特報した「ライシャワー発言」など、核持ち込み問題の取材記録を公開する連載「灰色の領域～米国の核の傘と非核三原則の交差点」を『アジア時報』に掲載しました。その成果の一端を、中島琢磨（九州大学）、西村真彦（京都大学）、岸俊光（毎日新聞社／早稲田大学）の3氏が日本国際政治学会2020年度研究大会で発表し、注目を集めました。



「日本外交の前提条件」を討議する研究委員会＝1967年

# アジア・太平洋賞

## 若手・中堅研究者を支援

### ●合計152人が受賞

アジア調査会創立25周年を記念して、1989（平成元）年に創設しました。毎日新聞社とアジア調査会が主催し、アジア・太平洋の政治、経済、外交、文化などについての優れた著書を発表した研究者や実践者に贈られます。久永アンドカンパニー、三輝工業（大阪）、公益財団法人渋沢栄一記念財団、カルチュア・コンビニエンス・クラブに協賛、一般財団法人MRAに助成をいただいています。第36回までの受賞者は合計152人にのぼります。



2020年11月17日に行われた第32回アジア・太平洋賞の表彰式。前列左から『平和構築を支援する』で特別賞を受賞した谷口美代子氏、『草の根の中国』で大賞を受賞した田原史起氏、『台湾総統選挙』で特別賞を受賞した小笠原欣幸氏、『アジア経済とは何か』で特別賞を受賞した後藤健太氏。後列は協賛社・団体の皆さん。



1989年11月21日に、アジア調査会創立25周年祝賀パーティーと一緒に開かれた第1回アジア・太平洋賞の表彰式。『アジア太平洋の多元経済外交』でピーター・ドライスデール氏（右から2人目）が大賞、『変わりゆく中国の政治社会』の小島朋之、『中国改革最前線』の天児慧、『近世日本と東アジア』の荒野泰典、『インドネシア農村経済論』の加納啓良、『韓国社会の転換』の滝沢秀樹各氏がそれぞれ特別賞を受賞した。中央は祝辞を述べる海部俊樹首相（当時）。

## アジア・太平洋賞の受賞者と作品

回	賞	著者名・書名・出版社
【第1回】 (1989年11月21日)	大賞	ピーター・ドライスデール『アジア太平洋の多元経済外交』(毎日コミュニケーションズ)
	特別賞	小島朋之『変わりゆく中国の政治社会』(芦書房)▽天児慧『中国改革最前線』(岩波書店)▽荒野泰典『近世日本と東アジア』(東京大学出版会)▽加納啓良『インドネシア農村経済論』(勁草書房)▽滝沢秀樹『韓国社会の転換』(御茶の水書房)
【第2回】 (1990年11月21日)	大賞	渡辺利夫『西太平洋の時代』(文藝春秋)
	特別賞	前田成文『東南アジアの組織原理』(勁草書房)▽松本英紀『宋教仁の日記』(同朋舎出版)▽大塚和夫『異文化としてのイスラーム』(同文館出版)▽赤木攻『タイの政治文化』(勁草書房)▽井上勇一『東アジア鉄道国際関係史』(慶応通信)▽油井大三郎『未完の占領改革』(東京大学出版会)
【第3回】 (1991年11月13日)	大賞	浜下武志『近代中国の国際的契機』(東京大学出版会)
	特別賞	立川武蔵『女神たちのインド』(せりか書房)▽星野龍夫『濁流と満月—タイ民族史への招待』(弘文堂)▽何博伝『中国・未来への選択—かくも多き難題の山』(日本放送出版協会)▽松原正毅『遊牧民の肖像—自由な草原に生きる』(角川書店)▽劉香織『断髮—近代東アジアの文化衝突』(朝日新聞社)
	特別奨励賞	トラン・ゴク・ラン『ベトナム難民少女の十年』(中央公論社)
【第4回】 (1992年11月19日)	大賞	巖安生『日本留学精神史—近代中国知識人の軌跡』(岩波書店)
	特別賞	朱建栄『毛沢東の朝鮮戦争』(岩波書店)▽趙甲済『朴正熙』(亜紀書房)▽竹田いさみ『移民・難民・援助の政治学』(勁草書房)▽パスク・ボンバイチット『日本のアセアン投資—その新しい潮流 要因と展望』(文眞堂)
	特別奨励賞	矢野暢『講座 東南アジア学 (11冊)』(弘文堂)
【第5回】 (1993年11月10日)	大賞	蘇曉康、羅時叙、陳政『廬山会議—中国の運命を定めた日』(毎日新聞社)
	特別賞	ジョシュア・A・フォーゲル『中江丑吉と中国—ヒューマニストの生と学問』(岩波書店)▽トラン・ヴァン・トゥ『産業発展と多国籍企業—アジア太平洋ダイナミズムの実証研究』(東洋経済新報社)▽鐸木昌之『北朝鮮—社会主義と伝統の共鳴』(東京大学出版会)
【第6回】 (1994年12月1日)	大賞	毛里和子『現代中国政治』(名古屋大学出版会)
	特別賞	秦辰也『バンコクの熱い季節』(岩波書店)▽中嶋弓子『ハワイ・さまよえる楽園—民族と国家の衝突』(東京書籍)▽佐藤真知子『新・海外定住時代—オーストラリアの日本人』(新潮社)
【第7回】 (1995年11月9日)	大賞	松本健一『近代アジア精神史の試み』(中央公論社)
	特別賞	ウィリアム・H・オーバーホルト『中国・次の超大国』(サイマル出版会)▽坪井善明『ヴェトナム「豊かさ」への夜明け』(岩波書店)▽上村幸治『台湾 アジアの夢の物語』(新潮社)
【第8回】 (1996年11月18日)	大賞	船橋洋一『アジア太平洋フュージョン—APECと日本』(中央公論社)
	特別賞	後藤乾一『近代日本と東南アジア—南進の「衝撃」と「遺産」』(岩波書店)▽川勝平太『富国有徳論』(紀伊國屋書店)▽関志雄『円圏の経済学—アジアにおける通貨統合の展望』(日本経済新聞社)
【第9回】 (1997年11月17日)	大賞	ケント・E・カルダー『アジア危機の構図—エネルギー・安全保障問題の死角』(日本経済新聞社)
	特別賞	国分良成『アジア時代の検証 中国の視点から』(朝日新聞社)▽大野健一『市場移行戦略—新経済体制の創造と日本の知的支援』(有斐閣)▽三留理男『辺境の民—アジアの近代化と少数民族』(弘文堂)
【第10回】 (1998年11月19日)	大賞	ドン・オーバードーフアー『二つのコリア—国際政治の中の朝鮮半島』(共同通信社)
	特別賞	嘉数啓、吉田恒昭『アジア型開発の課題と展望—アジア開発銀行30年の経験と教訓』(名古屋大学出版会)▽岩崎育夫『華人資本の政治経済学—土着化とボーダレスの間で』(東洋経済新報社)▽加藤敏春+さくら総合研究所環太平洋研究センター『アジアネットワーク—情報社会における日本の戦略』(日本経済評論社)
【第11回】 (1999年11月19日)	大賞	中兼和津次『中国経済発展論』(有斐閣)
	特別賞	野村進『アジア 新しい物語』(文藝春秋)▽石郷岡建『ソ連崩壊1991』(書苑新社)▽原暉之『ウラジオストック物語—ロシアとアジアが交わる街』(三省堂)

回	賞	著者名・書名・出版社
【第12回】 (2000年11月8日)	大賞	ジェームズ・マン『米中奔流』(共同通信社)
	特別賞	中村哲『医は国境を越えて』(石風社)▽秋尾沙戸子『運命の長女—スカルノの娘メガワティの半生』(新潮社)▽小川忠『ヒンドゥー・ナショナリズムの台頭—軌むインド』(NTT出版)
【第13回】 (2001年11月7日)	大賞	末廣昭『キャッチアップ型工業化論—アジア経済の軌跡と展望』(名古屋大学出版会)
	特別賞	木村幹『朝鮮／韓国ナショナリズムと「小国」意識—朝貢国から国民国家へ』(ミネルヴァ書房)▽金子芳樹『マレーシアの政治とエスニシティ—華人政治と国民統合』(晃洋書房)▽桜井啓子『現代イラン—神の国の変貌』(岩波書店)
【第14回】 (2002年11月21日)	大賞	木村汎『遠い隣国』(世界思想社)
	特別賞	山室信一『思想課題としてのアジア—基軸・連鎖・投企』(岩波書店)▽田中恭子『国家と移民—東南アジア華人世界の変容』(名古屋大学出版会)▽藤田雄二『アジアにおける文明の対抗—攘夷論と守旧論に関する日本、朝鮮、中国の比較研究』(御茶の水書房)
【第15回】 (2003年11月21日)	大賞	酒井啓子『イラクとアメリカ』(岩波書店)
	特別賞	ロバート・D・エルドリッチ『沖縄問題の起源—戦後日米関係における沖縄 1945-1952』(名古屋大学出版会)▽清水美和『中国農民の反乱—昇竜のアキレス腱』(講談社)▽田代和生『倭館—鎖国時代の日本人町』(文藝春秋)
【第16回】 (2004年11月24日)	大賞	トンチャイ・ウィニツチャクン『地図がつくったタイ—国民国家誕生の歴史』(明石書店)
	特別賞	樊綱『中国 未完の経済改革』(岩波書店)▽小島眞『インドのソフトウェア産業—高収益復活をもたらす戦略的ITパートナー』(東洋経済新報社)▽堀井聡江『イスラーム法通史』(山川出版)
【第17回】 (2005年12月6日)	大賞	中島岳志『中村屋のボース—インド独立運動と近代日本のアジア主義』(白水社)
	特別賞	下斗米伸夫『アジア冷戦史』中央公論新社▽高安健一『アジア金融再生—危機克服の戦略と政策』(勁草書房)▽高木徹『大仏破壊—バーミアン遺跡はなぜ破壊されたか』(文藝春秋)
【第18回】 (2006年11月16日)	大賞	エマ・ラーキン『ミャンマー—という国への旅』(晶文社)
	特別賞	羽田正『イスラーム世界の創造』(東京大学出版会)▽王曙光『栄家の血脈』(東洋経済新報社)▽杉本信行『大地の咆哮』(PHP研究所)
【第19回】 (2007年11月19日)	大賞	高文謙『周恩来秘録』(文藝春秋)
	特別賞	ブラッドレー・マーティン『北朝鮮「偉大な愛」の幻』(青灯社)▽佐藤幸人『台湾ハイテク産業の生成と発展』(岩波書店)▽玄大松『領土ナショナリズムの誕生』(ミネルヴァ書房)
【第20回】 (2008年11月13日)	大賞	若林正文『台湾の政治』東京大学出版会
	特別賞	田中修『検証 現代中国の経済政策決定』(日本経済新聞出版社)▽水谷尚子『中国を追われたウイグル人』(文藝春秋)▽園田茂人『不平等国家 中国』(中央公論新社)
【第21回】 (2009年11月17日)	大賞	ワシーリー・モロジャコフ『後藤新平と日露関係史』(藤原書店)▽ロー・ダニエル『竹島密約』(草思社)
	特別賞	朴羊信『陸羯南』(岩波書店)▽廣瀬陽子『コーカサス 国際関係の十字路』(集英社)
【第22回】 (2010年11月15日)	大賞	野間秀樹『ハンガルの誕生—音から文字を創る』(平凡社新書)
	特別賞	山田勝芳『溥儀の忠臣・工藤忠—忘れられた日本人の満洲国』(朝日新聞出版)▽城山英巳『中国共産党「天皇工作」秘録』(文春新書)
【第23回】 (2011年11月14日)	大賞	リチャード・マグレガー『中国共産党』(草思社)
	特別賞	白杵陽『大川周明—イスラームと天皇のはざままで』(青土社)▽服部龍二『日中国交正常化』中公新書
【第24回】 (2012年11月6日)	大賞	佐藤百合『経済大国インドネシア』(中央公論新社)
	特別賞	中溝和弥『インド 暴力と民主主義』東京大学出版会▽茅原郁生『中国軍事大国の原点』(蒼蒼社)▽川端基夫『アジア市場を拓く』(新評論)
【第25回】 (2013年11月7日)	大賞	王輝『文化大革命の真実 天津大動乱』(ミネルヴァ書房)
	特別賞	永井均『フィリピンBC級戦犯裁判』(講談社)▽福田円『中国外交と台湾—「一つの中国」原則の起源』(慶應義塾大学出版会)

回	賞	著者名・書名・出版社
【第26回】 (2014年11月11日)	大賞	葛兆光『中国再考—その領域・民族・文化』（岩波書店）
	特別賞	タンミンウー『ビルマ・ハイウェイ—中国とインドをつなぐ十字路』（白水社）▽古賀勝次郎『鑑の近代—「法の支配」をめぐる日本と中国』（春秋社）
【第27回】 (2015年11月11日)	大賞	奈良岡聰智『対華二十一カ条要求とは何だったのか—第一次世界大戦と日中対立の原点』（名古屋大学出版会）
	特別賞	林載桓『人民解放軍と中国政治—文化大革命から鄧小平へ』（名古屋大学出版会）▽朴裕河『帝国の慰安婦—植民地支配と記憶の闘い』（朝日新聞出版）▽澤田克己『韓国「反日」の真相』（文春新書）
【第28回】 (2016年11月9日)	大賞	該当作なし
	特別賞	上村泰裕『福祉のアジア—国際比較から政策構想へ』（名古屋大学出版会）▽鈴木真弥『現代インドのカーストと不可触民—都市下層民のエスノグラフィー』（慶應義塾大学出版会）▽堀田江理『1941 決意なき開戦—現代日本の起源』（人文書院）▽加藤弘之『中国経済学入門』（名古屋大学出版会）
【第29回】 (2017年11月16日)	大賞	沈志華『最後の「天朝」—毛沢東・金日成時代の中国と北朝鮮』（岩波書店）
	特別賞	富田武『シベリア抑留—スターリン独裁下、「収容所群島」の実像』（中公新書）▽戸部良一『自壊の病理—日本陸軍の組織分析』（日本経済新聞出版社）▽岡本隆司『中国の誕生—東アジアの近代外交と国家形成』（名古屋大学出版会）
【第30回】 (2018年11月26日)	大賞	該当作なし
	特別賞	金恩貞『日韓外交正常化交渉の政治史』（千倉書房）▽阿南友亮『中国はなぜ軍拡を続けるのか』（新潮選書）▽吉田裕『日本軍兵士—アジア・太平洋戦争の実象』（中公新書）
【第31回】 (2019年11月13日)	大賞	小此木政夫『朝鮮分断の起源—独立と統一の相克』（慶應義塾大学法学研究会）
	特別賞	清水麗『台湾外交の形成—日華断交と中華民国からの転換』（名古屋大学出版会）▽高橋和宏『ドル防衛と日米関係—高度成長期日本の経済外交 1959-1969年』（千倉書房）▽猪俣哲史『グローバル・バリューチェーン—新・南北問題へのまなざし』（日本経済新聞出版社）
【第32回】 (2020年11月17日)	大賞	田原史起『草の根の中国—村落ガバナンスと資源循環』（東京大学出版会）
	特別賞	小笠原欣幸『台湾総統選挙』（晃洋書房）▽谷口美代子『平和構築を支援する—ミンダナオ紛争と平和への道』（名古屋大学出版会）▽後藤健太『アジア経済とは何か—躍進のダイナミズムと日本の活路』（中公新書）
【第33回】 (2021年11月19日)	大賞	杉原薫『世界史のなかの東アジアの奇跡』（名古屋大学出版会）
	特別賞	石川禎浩『中国共産党、その百年』（筑摩選書）▽中西嘉宏『ロヒンギャ危機—「民族浄化」の真相』（中公新書）▽中島楽章『大航海時代の海域アジアと琉球—レキオスを求めて』（思文閣出版）
【第34回】 (2022年11月14日)	大賞	山口信治『毛沢東の強国化戦略 1949—1976』（慶應義塾大学出版会）
	特別賞	ケネス・盛・マッケルウェイン『日本国憲法の普遍と特異—その軌跡と定量的考察』（千倉書房）▽岡本行夫『危機の外交—岡本行夫自伝』（新潮社）▽井上正夫『東アジア国際通貨と中世日本—宋銭と為替からみた経済史』（名古屋大学出版会）
【第35回】 (2023年11月13日)	大賞	東島雅昌『民主主義を装う権威主義—世界化する選挙独裁とその論理』（千倉書房）
	特別賞	シナン・レヴェント『石油とナショナリズム—中東資源外交と「戦後アジア主義」』（人文書院）▽中屋信彦『中国国有企業の政治経済学—改革と持続』（名古屋大学出版会）
	選考委員会特別賞	中山俊宏『理念の国がきしむとき—オバマ・トランプ・バイデンとアメリカ』（千倉書房）
【第36回】 (2024年11月14日)	大賞	岩谷将『盧溝橋事件から日中戦争へ』（東京大学出版会）
	特別賞	林采成『健康朝鮮—植民地のなかの感染症・衛生・身体』（名古屋大学出版会）▽河西陽平『スターリンの極東戦略 1941-1950—インテリジェンスと安全保障認識』（慶應義塾大学出版会）

(※回数下の年月日は表彰式の日付)

# 講演会 ◆ 60年の記録

1965 (昭和40)年～2024 (令和6)年  
(講演会の詳細は、特段の事情がない限り、  
月号後の「アジア時報」に掲載している)

## 1965 (昭和40)年

- ◇2・4 ヘンリー・シャピロ(UPIモスクワ支局長)「ソ連の新政権と中ソ関係」東京
- ◇2・8 ヘンリー・シャピロ(UPIモスクワ支局長)「ソ連の新政権と中ソ関係」大阪
- ◇4・14 エドガー・フォール(フランス元首相)「仏の外交政策と中国およびベトナム」東京
- ◇4・19 エドガー・フォール(フランス元首相)「仏の外交政策と中国およびベトナム」大阪
- ◇4・24 ウォルト・W・ロストウ(米国務省政策企画委員長)「米国のベトナム政策」東京
- ◇6・18 エドウィン・ライシャワー(駐日米国大使)「世界情勢と米外交政策、ベトナム問題について」東京
- ◇7・15 伊藤知可士(自衛隊一佐)「ベトナム戦局の現状、米中の戦略と今後の見通しについて」東京
- ◇7・26 三木武夫(通産相)「コスイギン・ソ連首相、ドゴール仏大統領、ジョンソン米大統領らとの会談内容やベトナム問題に対する各国の見解」東京
- ◇8・17 沈昌煥(国府外交部長)「日華両国の親善と中共に対する国府の役割について」(東京)
- ◇9・16 レイモン・アロン(仏フィガロ紙論説委員)「ベトナム戦争」東京
- ◇10・19 マイク・スチュアート(英外相)「アジアにおける英国の役割」東京
- ◇10・27 フィリップ・クイッグ(米・フォーリン・アフェアーズ誌編集長)「米世論と外交政策」東京
- ◇11・4 新井宝雄(毎日新聞論説委員)「中共の現状について」東京
- ◇11・8 大森実(毎日新聞外信部長)「北ベトナムの現状について」東京
- ◇12・23 松本重治(国際文化会館理事長)「欧米各国よりの帰国報告を中心に」東京

## 1966 (昭和41)年

- ◇3・16 牛場信彦(外務審議官)「日印関係と最近のインドシナ情勢について」東京
- ◇4・16 スパナ・ブーマ(ラオス首相)「ベトナム問題に対するラオスの立場について」東京
- ◇4・20 斎藤鎮男(駐インドネシア大使)「インドネシアの現状について」東京
- ◇5・17 マクジョージ・バンディ(米フォード財団理事長)「日米関係、ベトナム、中共問題について」東京
- ◇6・9 松村謙三(自民党衆院議員)「中共訪問からの帰国報告」東京
- ◇6・18 タナット・コーマン(タイ外相)「ベトナム問題とタイの外交政策について」東京
- ◇7・4 ソール・ローズ(オックスフォード大学教授)「中国と東南アジア関係について」東京
- ◇8・12 レオ・マテス(ユーゴ国際経済関係研究所所長)「非同盟政策とベトナム問題」東京
- ◇9・6 板垣修(前駐インド大使)「インドの外交政策」東京
- ◇10・4 小坂善太郎(前外相)「紅衛兵旋風の中を視察して」東京
- ◇10・7 白幡友敬(元外務省移住局長)「アジア外交の反省」東京
- ◇12・2 林語堂(中国・文明批評家)「文化革命と中共思想の変遷」東京

## 1967 (昭和42)年

- ◇1・12 マックス・ベロフ(オックスフォード大学教授)「英国の議会制度」東京
- ◇1・17 スベトザール・ブクマノビッチ(ユーゴ前副大統領)「ユーゴから見た中共」東京
- ◇2・12 アレクシス・ジョンソン(駐日米国大使)「米国の対中共政策」東京
- ◇2・15 ロデリック・マクファーラー(英チャイナ・クォーター誌主筆)「中共の文化大革命」東京
- ◇4・14 チミド・ドルジ(モンゴル外務次官)「モンゴルの

## 外交政策」東京

- ◇4・18 アンドレ・ボーフ(フランス核戦略問題研究者)「核時代における新戦略」東京
- ◇4・21 アンドレ・ボーフ(フランス核戦略問題研究者)「ベトナム戦争と中ソ」東京
- ◇5・2 明石康(国連事務局員)「カンボジアをめぐる国際情勢について」東京
- ◇6・6 バーナード・ブローディ(カリフォルニア大学教授)「核問題とアジアの平和」東京
- ◇6・20 ロジャー・ヒルズマン(コロンビア大学教授)「アメリカのアジア政策の評価」東京
- ◇8・16 三木武夫(外相)「日本の外交問題について」東京
- ◇8・21 ベンジャミン・I・シュワルツ(ハーバード大学教授)「中国の文化大革命とその背景」東京
- ◇10・4 三好修(毎日新聞前パリ特派員)「欧州からみたアジア」東京
- ◇12・4 アーノルド・J・トインビー(歴史学者)「日中関係の回顧と展望」東京

## 1968 (昭和43)年

- ◇1・9 ジョージ・A・ブラウン(英外相)「英国から見たアジアと日本」東京
- ◇2・22 ジャヤプラカシ・ナラヤン(インドの社会運動家)「インドの当面する諸問題」東京
- ◇3・19 イアン・ボーエン(西オーストラリア大学経済学部長)「日豪経済関係の現状と将来」東京
- ◇3・29 スハルト(インドネシア大統領)「日本・インドネシア関係について」東京
- ◇4・12 マルコ・ニケジッチ(ユーゴ外相)「ユーゴの内外情勢」東京
- ◇4・24 ヨーゼフ・クラウス(オーストリア首相)「オーストリアの中立と国防」東京
- ◇5・16 サミュエル・B・グリフィス(英戦略研究所員)「中国人民解放軍の動向」東京
- ◇6・18 野村嘉彦(第一通商代表取締役)「パリ会議と北ベトナムの内幕」東京
- ◇7・3 岸幸一(アジア経済研究所主任調査研究員)「インドネシア経済の現状」東京
- ◇7・19 チャン・バン・ドン(南ベトナム上院議員)「ベトナム情勢はどうなるか」東京
- ◇9・10 三木武夫(外相)「日本のアジア外交」東京
- ◇10・4 谷畑良三(毎日新聞前モスクワ支局長)「移りゆくソ連とアジア」東京
- ◇10・8 アリス・L・シェ(米ランド・コーポレーション主任研究員)「核時代の中国とアジア」東京
- ◇10・25 ロバート・A・スカラビノ(カリフォルニア・パークレー大学教授)「ベトナム戦後の米アジア政策」東京
- ◇11・5 ラド・ドウゴニッチ(ユーゴ社会主義勤労者同盟課長)「ユーゴの現在の立場」東京
- ◇11・19 クラウス・メーネル(西独アーヘン工科大学教授)「北京・モスクワ・ワシントン」東京

## 1969 (昭和44)年

- ◇2・6 ヘンリー・S・ローエン(米ランド・コーポレーション所長)「アジアにおける米国の役割」東京
- ◇2・13 北原秀雄(駐南ベトナム大使)「ベトナム情勢の現状と将来」東京
- ◇3・17 ジョセフ・フランケル(サザンプトン大学政治学部長)「英外交政策の知的構造」東京
- ◇4・1 アンドレ・ボーフ(仏核戦略理論家・将軍)「戦略的に見たベトナム戦後のアジア情勢」東京
- ◇4・16 ハンス・J・モーゲンソー(シカゴ大学教授)「核戦力と外交政策」東京
- ◇4・22 渡辺弥栄司(アジア経済研究所監事)「中国の現状」東京
- ◇4・28 ハーマン・カーン(ハドソン研究所所長)「未来学より見たアジアの将来」東京
- ◇5・8 シドニー・ポラード(シェフィールド大学教授)「英

経済の現状とその背景」東京

- ◇5・27 **バーナード・K・ゴードン**(ジョージ・ワシントン大学教授)「東南アジアの地域協力」東京
- ◇6・11 **ウォルト・ロストウ**(テキサス大学教授)「アジアの将来について」東京
- ◇6・19 **アレキサンダー・エクスタイン**(ミシガン大学教授)「米国の通商政策と日中関係」東京
- ◇7・1 **曾祚益**(民社党衆議院議員)「沖縄・安保に対する米国の考え方」東京
- ◇7・25 **渡辺武**(アジア開銀総裁)「東南アジアの将来と開銀の役割」東京
- ◇9・8 **エドウィン・ライシャワー**(ハーバード大学教授)「アジアと日米関係」東京
- ◇9・18 **ミルトン・フリードマン**(シカゴ大学教授)「新自由主義と世界」東京
- ◇9・22 **山田久就**(自民党衆議院議員)「ソ連・東欧を視察して」東京
- ◇10・7 **朝海浩一郎**(ジュネーブ軍縮委政府代表)「軍縮委の印象」東京
- ◇10・20 **ヒューバート・H・ハンフリー**(前米副大統領)「日米関係の将来」東京
- ◇11・13 **ノーマン・カズンズ**(米サタデー・レビュー誌主筆)「平和の探求」東京

### 1970 (昭和45)年

- ◇1・12 **モートン・H・ハルベリン**(ブルッキングス研究所)「沖縄以後の日米関係」東京
- ◇1・14 **モートン・H・ハルベリン**(ブルッキングス研究所)「米ソ戦略のバランスと影響」大阪
- ◇2・9 **愛知揆一**(外務大臣)「日本外交の展望」東京
- ◇2・20 **古井喜実**(自民党衆議院議員)「当面の日中問題」大阪
- ◇3・12 **永野重雄**(富士製鉄社長)「日ソ経済合同委について」東京
- ◇3・25 **スチュアート・シュラム**(ロンドン大学現代中国研究所長)「毛沢東主義におけるレーニン主義と人民主義」東京
- ◇4・15 **福田一**(衆議院議員)「日米繊維交渉について」大阪
- ◇4・27 **藤山愛一郎**(衆議院議員)「日中関係の将来」東京
- ◇5・13 **ドミニク・ペトロフ**(ソ連歴史学博士)「ソ連経済と日本」東京
- ◇5・26 **藤山愛一郎**(自民党衆議院議員)「北京から帰って」大阪
- ◇6・10 **クリスター・ピックマン**(スウェーデン産業相)「スウェーデンの産業政策について」東京
- ◇6・17 **アブデル・カーデル・ハテム**(アラブ連合大統領顧問)「中東情勢の現状」東京
- ◇7・1 **ボルフガング・レオンハルト**(ベルリン自由大学教授)「中ソ論争の起源と影響」東京
- ◇7・2 **宇佐美滋**(毎日新聞外信部記者)「北ベトナムの自信と問題点」大阪
- ◇7・9 **三木武夫**(自民党衆議院議員)「私の見た世界」東京
- ◇7・9 **三好修**(毎日新聞論説委員)「インドシナ戦争と日本」名古屋
- ◇7・20 **フランソワ・デュシェーヌ**(英戦略研究所長)「米ソ関係と欧州の安全保障」東京
- ◇7・30 **R・P・ドーア**(英サセックス大学経済開発研究所員)「産業と教育」大阪
- ◇9・14 **下田武三**(前駐米大使)「日米関係の現状」大阪
- ◇9・16 **イン・タム**(カンボジア国会議長)「カンボジアの内幕」東京
- ◇9・29 **モルデハイ・バーオン**(イスラエル、ユダヤ機関青年パイオニア局長)「中東情勢とアジアへの影響」東京
- ◇10・5 **中曽根康弘**(防衛庁長官)「現代の国際情勢と日本のあり方」東京
- ◇10・15 **クーデンホーフ・カレルギー**(パン・ヨーロッパ運動総裁)「世界平和の問題」東京
- ◇10・19 **中曽根康弘**(防衛庁長官)「総合戦略と日本」名古屋
- ◇10・21 **クーデンホーフ・カレルギー**(パン・ヨーロッパ運動総裁)「世界平和と日本の役割」大阪
- ◇10・27 **レイモン・アロン**(パリ大学教授)「戦後25年—アメリカの危機?」東京

- ◇11・30 **堀江薫雄**(貿易研修センター理事長)「ポスト・ベトナムは始まっている」大阪

### 1971 (昭和46)年

- ◇2・5 **ズビグニェウ・K・ブルゼジンスキー**(コロンビア大学共産圏問題研究所長)「電子技術時代の国際政治」東京
- ◇3・12 **藤山愛一郎**(自民党衆議院議員)「北京から帰って」東京
- ◇3・19 **中山素平**(日本興業銀行相談役)「新しい国際主義の理念」名古屋
- ◇4・13 **岡崎嘉平太**(日中覚書貿易事務所代表)「日中関係の新段階」大阪
- ◇4・15 **蕭慶威**(シンガポール南洋大学教授)「東南アジアと日本」東京
- ◇5・11 **蕭慶威**(シンガポール南洋大学教授)「海洋東南アジアと日本」大阪
- ◇5・28 **藤山愛一郎**(自民党衆議院議員)「米中接近と日本」名古屋
- ◇6・7 **オーエン・ラチモア**(英リーズ大学教授)「現代中国の国際的地位」東京
- ◇6・8 **オーエン・ラチモア**(英リーズ大学教授)「米国の中国政策の変化」東京
- ◇6・9 **オーエン・ラチモア**(英リーズ大学教授)「米国の保守派とアジア政策」名古屋
- ◇6・11 **オーエン・ラチモア**(英リーズ大学教授)「現代中国と戦時下の思い出」大阪
- ◇7・5 **スチュアート・シュラム**(ロンドン大学教授)「毛沢東と劉少奇」東京
- ◇7・19 **ジョセフ・ニーダム**(ケンブリッジ大学教授)「中国の科学と技術」東京
- ◇7・19 **小坂善太郎**(自民党衆議院議員)「政策の中の中国問題」名古屋
- ◇7・29 **竹内義勝**(公明党委員長)「北京を訪ねて」大阪
- ◇9・7 **堀江薫雄**(貿易研修所理事長)「ドル防衛非常措置と国際経済」名古屋
- ◇9・13 **G・B・スタルシェンコ**(ソ連科学アカデミー)「アジアの新情勢とソ連の対応」東京
- ◇9・29 **田中角栄**(通産相)「日米加会議から帰って」東京
- ◇10・5 **エルンスト・クックス**(スイス・ノイエ・チュルヒャー・ツァイトゥング論説主幹)「東欧諸国と中国」東京
- ◇10・13 **川崎秀二**(自民党衆議院議員)「北京から帰って」名古屋
- ◇10・15 **宇都宮徳馬**(自民党衆議院議員)「日中復交の基本問題」東京
- ◇10・26 **中司清**(鐘化会長)「戦前の中国と現在の中国」大阪
- ◇11・15 **堀江薫雄**(貿易研修所理事長)「円・ドル・マルク・フラン」東京
- ◇11・26 **ジェローム・コーエン**(ハーバード大学教授)「アメリカの中国政策の将来」東京
- ◇11・30 **サー・デニス・リケット**(世銀副総裁)「世銀の目的と機能」大阪
- ◇12・6 **大平正芳**(自民党衆議院議員)「日本をめぐる諸問題」名古屋

### 1972 (昭和47)年

- ◇1・17 **岡崎嘉平太**(日中覚書貿易事務所代表)「中国問題を考える」名古屋
- ◇1・19 **福田赳夫**(外相)「これからの日本外交」東京
- ◇2・15 **美濃部亮吉**(東京都知事)「朝鮮と中国を訪問して」東京
- ◇3・17 **山田久就**(自民党衆議院議員)「米中会談と日本」名古屋
- ◇4・4 **リチャード・ローエンター**(ベルリン自由大学教授)「ソ連外交について」東京
- ◇5・16 **春日一幸**(民社党委員長)「日中新関係をどうするか」大阪
- ◇5・17 **三木武夫**(自民党衆議院議員)「日中問題について」東京
- ◇6・5 **岩佐凱実**(日米経済協議会会長)「日米経済問題について」東京
- ◇6・12 **ハルシャル・バクチアル**(インドネシア大学文学

- 部長)「インドネシアの大学教育」東京  
 ◇6・15 堀江薫雄(貿易研修センター会長)「現下の国際金融事情と日本にとっての問題点」大阪  
 ◇6・26 ジェローム・コーエン(ハーバード大学教授)「現代中国の展望」東京  
 ◇7・11 村野辰雄(三和銀行頭取)「中国訪問を終えて」大阪  
 ◇7・18 チャルマーズ・ジョンソン(カリフォルニア大学教授)「日米関係の政治的側面」東京  
 ◇8・11 ジェローム・コーエン(ハーバード大学教授)「朝鮮民主主義人民共和国の印象」東京  
 ◇9・5 マイケル・オクセンバーグ(コロンビア大学助教授)「現代中国の課題」東京  
 ◇9・12 宮崎勇(経企庁調査局長)「世界経済の中の日本」大阪  
 ◇9・13 ジョセフ・ニーダム(ケンブリッジ大学ゴンビル・カイウス・カレッジ学長)「巨大な社会的実験」東京  
 ◇10・17 石川忠雄(慶應義塾大学教授)「日中復交とアジア情勢」大阪  
 ◇10・17 岡崎嘉平太(日中覚書貿易事務所代表)「日中国対回復と今後の経済交流」東京  
 ◇10・25 金野宗次(毎日新聞政治部長)「見てきた生の中国情勢」名古屋  
 ◇11・1 ゲオルギー・アルバートフ(ソ連科学アカデミー附属アメリカ研究所長)「米ソ関係と日本」東京  
 ◇11・10 高橋武彦(毎日新聞論説主幹)「日中新時代を迎えた政局の動向」大阪  
 ◇11・15 ソムサク・スートー(タイ・チュラロンコーン大学教授)「日本・中国および東南アジア」東京  
 ◇11・24 ジョン・K・フェアバンク(ハーバード大学教授)「今後の米国と東アジアの関係」東京  
 ◇12・4 オーエン・ラチモア(リーズ大学教授)「中国・モンゴル・ソ連における革命とその相違」東京  
 ◇12・5 藤井丙午(新日鉄副社長)「これからの日本の進路」名古屋  
 ◇12・6 オーエン・ラチモア(リーズ大学教授)「アジア情勢の転換とアメリカの政策」大阪  
 ◇12・7 オーエン・ラチモア(リーズ大学教授)「田中首相訪中後の北京とアジアの情勢」名古屋

## 1973 (昭和48)年

- ◇1・16 大平正芳(外相)「日本外交の当面の課題」東京  
 ◇1・18 ハロルド・アイザックス(マサチューセッツ工科大学教授)「アジアにおける勢力関係の新しいパターン」名古屋  
 ◇1・19 ハロルド・アイザックス(マサチューセッツ工科大学教授)「70年代における日・米・中国の新しいイメージ」大阪  
 ◇1・25 ハロルド・アイザックス(マサチューセッツ工科大学教授)「ベトナム戦争と米社会」東京  
 ◇2・15 中曽根康弘(通産相)「東京・北京・バンコク」東京  
 ◇3・8 堀江薫雄(貿易研修センター会長)「激動する国際通貨事情」名古屋  
 ◇3・19 クラモン・トンダマチャート(タイ・チュラロンコーン大学助教授)「ポスト・ベトナムの東南アジア情勢」東京  
 ◇5・15 アレクサンドル・ミハイロビッチ・シャルコフ(ソ日協会理事)「ソ連の対外経済政策」東京  
 ◇7・4 渡辺長雄(日興リサーチセンター取締役)「中国経済の現状と日本」大阪  
 ◇7・20 ネーザン・グレーザー(ハーバード大学教授)「変化する米国の対日態度」名古屋  
 ◇7・26 リタ・E・ハウザー(米国際法協会理事)「米国憲政上の危機」東京  
 ◇7・31 橋豊(日本貿易振興会経済情報部長)「激動する日米経済関係の核心」大阪  
 ◇9・14 河崎邦夫(東洋紡績社長)「訪中所見」大阪  
 ◇9・26 牛場信彦(前駐米大使)「アメリカ報告」東京  
 ◇10・22 大平正芳(外相)「首脳外交を終えて」東京  
 ◇10・25 ロバート・ノース(スタンフォード大学教授)「米ソ中日関係の変化」東京  
 ◇10・29 増田渉(関西大学教授)「中国の人と心」大阪  
 ◇11・15 フランツ・マイケル(ジョージ・ワシントン大学

- 教授)「文革以後の中国とその外交関係」東京  
 ◇11・19 安西浩(東京瓦斯会長)「シベリアの資源開発について」名古屋  
 ◇11・29 山田亮三(経済評論家)「資源問題と日本経済の見通し」大阪  
 ◇12・10 加藤乙三郎(電気事業連合会長、中部電力社長)「あすのエネルギー情勢」名古屋

## 1974 (昭和49)年

- ◇1・30 三木武夫(副総理)「中東と米国に使いして」東京  
 ◇2・18 山田久就(外務政務次官)「中東紛争と石油戦略」大阪  
 ◇2・25 矢野暢(京都大学助教授)「東南アジア情勢と日本外交」東京  
 ◇3・15 下村治(日本開発銀行設備投資研究所長)「当面の日本経済の動向と課題」名古屋  
 ◇3・25 ウォルフガング・ヒルシュェパー(マンハイム大学副学長)「ドイツ連邦共和国の外交政策」東京  
 ◇4・3 曾祜益(民社党常任顧問)「激動する中東を視察して」東京  
 ◇4・9 勝田吉太郎(京都大学教授)「東南アジアで考える」大阪  
 ◇4・23 永野重雄(日本商工会議所会頭)「資源を求めて」名古屋  
 ◇5・9 W・S・ハンスパーガー(アメリカン大学教授)「日米通商に関する若干の考察」東京  
 ◇5・30 三木武夫(副総理)「ヨーロッパから帰って」東京  
 ◇6・7 高橋武彦(毎日新聞社論説主幹)「参院選の展望と政局」名古屋  
 ◇6・18 カール・ヤコブセン(ハーバード大学国際問題研究所教授)「ソ連極東戦略の構想」東京  
 ◇7・3 ウィリアム・セイウェル(トロント大学アジア研究所教授)「内からみた人民中国」東京  
 ◇7・25 春日一幸(民社党委員長)「今後の日本の政局」名古屋  
 ◇7・31 富田竹二郎(大阪外国語大学教授)「内から見たタイ国」大阪  
 ◇9・18 木村一三(国貿促進関西本部理事長)「エネルギー危機と中国の原油資源」大阪  
 ◇10・11 カプリエル・ヴァールブルグ(イスラエル・ハイファ大学学長)「中東情勢の新動向」東京  
 ◇10・11 宮脇朝男(全国農業協同組合中央会会長)「中国農業と日本」東京  
 ◇10・22 ヨハン・ガルトウング(ノルウェー・オスロ大学教授)「日本と将来のアジア政治」東京  
 ◇10・28 井上五郎(中部電力相談役)「世界エネルギー会議から帰って」名古屋  
 ◇11・25 飯沼二郎(京都大学教授)「朝鮮問題の原点」大阪  
 ◇12・3 桑原正信(滋賀大学学長)「日本をめぐる食糧問題」名古屋

## 1975 (昭和50)年

- ◇2・5 保利茂(自民党衆議院議員)「中国を訪問して」東京  
 ◇2・18 佐伯喜一(野村総合研究所所長)「中東問題をめぐる国際情勢」名古屋  
 ◇2・25 竹内美(京都大学助教授)「全国人民代表大会以降の中国」大阪  
 ◇2・26 パリス・チャン(張旭成)(ペンシルベニア州立大学准教授)「全人代と中国の今後」東京  
 ◇4・14 堀江薫雄(貿易研修センター会長)「古い中国と新しい中国」東京  
 ◇4・18 木村俊夫(前外相)「国際情勢と日本の進路」大阪  
 ◇4・24 アレキサンダー・エクスタイン(ミシガン大学中国研究センター所長)「中国の経済と対外貿易」東京  
 ◇5・6 バーナード・ルイス(プリンストン大学教授)「欧米の中東政策」東京  
 ◇6・11 升岡忠敏(毎日新聞論説委員)「インドシナ情勢の急変を目撃して」名古屋  
 ◇6・25 岡田晃(前ブルガリア大使)「東欧から見た中ソ関係」大阪  
 ◇6・27 バーナード・ゴードン(ニューハンプシャー大学教授)「ベトナム以後の東南アジア」東京  
 ◇7・8 宮沢喜一(外相)「最近の国際情勢と日本の外交」

- 東京  
 ◇7・28 **エイブラハム・ハルパーン**(ジョージ・ワシントン大学教授)「アメリカのアジア政策」東京  
 ◇9・8 **國弘正雄**(国際商科大学教授)「三木首相訪米に随行して」名古屋  
 ◇9・17 **ディッター・ゼンハース**(西ドイツ・フランクフルト大学教授)「現代の平和問題」東京  
 ◇9・30 **マルコム・マッキントッシュ**(英内閣事務局ソ連担当)「今後5年間に於けるソ連の内外戦略」東京  
 ◇10・9 **細見卓**(日本興業銀行顧問)「当面の国際経済情勢」大阪  
 ◇12・11 **ジョセフ・クラフト**(米コラムニスト)「米国と日本」東京  
 ◇12・17 **蕭慶威**(シンガポール・南洋大学教授)「インドシナ戦後のASEANの変化と日本との関係」名古屋

### 1976 (昭和51)年

- ◇2・24 **竹内実**(京都大学教授)「周恩来論」大阪  
 ◇3・4 **ハンス・アドルフ・ヤコブセン**(西ドイツ・ボン大学教授)「最近における西ドイツの外交政策」東京  
 ◇4・13 **クリストファー・B・ハウ**(ロンドン大学現代中国研究所長)「世界貿易における中国の役割」東京  
 ◇4・23 **クラモン・トングマチャート**(チュラロンコーン大学政治学部長)「タイとインドシナ三国との関係」東京  
 ◇5・12 **ブルース・D・ラーキン**(カリフォルニア大学中国研究センター所長)「西太平洋地域における中国の対外政策」名古屋  
 ◇5・28 **ジェローム・コーエン**(ハーバード大学教授)「ロッキード事件と日米関係」東京  
 ◇6・4 **後宮虎郎**(前駐韓大使)「韓国の風雲」大阪  
 ◇6・18 **木村俊夫**(前外相)「UNCTADと南北問題」東京  
 ◇7・5 **ヘルムト・マルチン**(西独ハンブルク・アジア問題研究所)「変動過程にある中国」東京  
 ◇7・27 **カール・クリストフ・シュバイツァー**(西独国会議員)「ヘルシンキ会議以後の西ドイツ外交」東京  
 ◇8・9 **仲谷義明**(愛知県知事)「現代中国と東海地方」名古屋  
 ◇9・27 **オーテス・ケーリー**(同志社大学教授)「よこ糸のない日本社会」大阪  
 ◇10・25 **小坂善太郎**(外相)「当面の日本外交—今後の日中関係」東京  
 ◇11・11 **山口一郎**(神戸大学教授)「毛沢東以後の中国—その行方と背景」大阪  
 ◇12・14 **エシエル・プール**(マサチューセッツ工科大学教授)「米国の選挙と日本の選挙」東京

### 1977 (昭和52)年

- ◇2・3 **ウクリット・モンコナウイン**(タイ国家行政改革議会副議長)「タイ政治の実情」東京  
 ◇2・14 **三宅重光**(名古屋商工会議所会頭)「世界と日本—みたま感じたま」名古屋  
 ◇3・4 **河野謙三**(参議院議長)「中国・イラン・インド三国を歴訪して」東京  
 ◇4・26 **上枝一雄**(三和銀行相談役)「訪中所感」大阪  
 ◇4・28 **土光敏夫**(経団連会長)「華国鋒体制下の中国の印象」東京  
 ◇7・12 **赤木攻**(大阪外国語大学講師)「10・6政変以後のタイ国」大阪  
 ◇7・18 **エズラ・ヴォーゲル**(ハーバード大学教授)「アメリカが日本から学ぶもの」東京  
 ◇9・26 **カール・クリストフ・シュバイツァー**(ボン・ケルン両大学教授)「EC統合問題と国際的影響」東京  
 ◇10・25 **中曽根康弘**(自民党前幹事長)「今日の国際情勢と日本の役割」東京  
 ◇11・17 **堀江薫雄**(東京銀行相談役)「国際経済情勢と『円』」東京  
 ◇11・22 **加藤乙三郎**(中部電力会長)「エネルギー雑感」名古屋  
 ◇12・8 **佐治敬三**(関西経済連副会長、サントリー社長)「欧米の自由経済体制と日本」大阪

### 1978 (昭和53)年

- ◇3・6 **稲山嘉寛**(新日本製鐵会長)「日中貿易の展望」東京

- ◇5・16 **竹内実**(京都大学人文科学研究所教授)「華国鋒体制論」大阪  
 ◇5・24 **アーネスト・デヒター**(ノヴァ、ローダーデール両大学教授)「消費を創り出す戦略」東京  
 ◇6・2 **高英茂**(ブラウン大学教授)「米中国交正常化のジレンマ」東京  
 ◇6・27 **水上達三**(三井物産相談役、日本貿易会会長)「ベトナムを訪問して」東京  
 ◇7・13 **井上靖**(作家)「作家の見た中国」東京  
 ◇7・19 **山田稔**(関西経済同友会代表幹事・ダイキン工業社長)「ヨーロッパ6カ国を訪ねて—国の安全保障問題調査所感」大阪  
 ◇10・16 **澄田智**(日本輸出入銀行総裁)「輸銀を通じてみた経済外交—全方位外交の一環として」東京  
 ◇11・16 **中江要介**(駐ユーゴスラビア大使、前外務省アジア局長)「日中平和友好条約締結の背景」名古屋  
 ◇11・17 **今日出海**(国際交流基金理事長・作家)「国際文化交流のあれこれ」東京  
 ◇11・21 **園田直**(外相)「日中後の日本外交」東京  
 ◇12・8 **山口一郎**(神戸大学教授)「北京の一年」大阪  
 ◇12・13 **スチュアート・シュラム**(ロンドン大学教授)「中国現政権と毛沢東の遺産」東京

### 1979 (昭和54)年

- ◇2・14 **井川克一**(前駐イラン大使)「イラン新情勢をめぐって」東京  
 ◇3・19 **チャルマーズ・ジョンソン**(カリフォルニア大学政治学部長)「米国外交政策と中国承認問題」東京  
 ◇4・17 **モートン・キャプラン**(シカゴ大学戦略研究センター所長)「1980年代の戦略」東京  
 ◇5・7 **天谷直弘**(資源エネルギー庁長官)「最近のエネルギー事情」東京  
 ◇6・13 **牛場信彦**(東京ラウンド日本政府代表)「世界経済と日本」東京  
 ◇7・26 **金子一平**(蔵相)「東京サミットとこれからの日本経済」東京  
 ◇9・7 **ウェルナー・ドラグーン**(西独ハンブルク・アジア研究所長)「アジアにおける日本の役割の変化」東京  
 ◇10・17 **永野重雄**(日本商工会議所会頭)「最近の海外経済諸問題について」東京  
 ◇11・12 **ジョン・T・セーウェル**(カナダ・ヨーク大学教授)「カナダの外交と太平洋」東京  
 ◇12・3 **佐伯喜一**(野村総合研究所会長)「日本をめぐる国際環境と安全保障」東京  
 ◇12・11 **海原治**(元国防会議事務局長・軍事評論家)「80年代の国際情勢と日本の防衛」名古屋

### 1980 (昭和55)年

- ◇3・26 **園田直**(前外相)「中東、インド亜大陸情勢と日本」東京  
 ◇4・12 **正示啓次郎**(経済企画庁長官)「80年代を迎え当面する経済運営について」大阪  
 ◇5・7 **坂田道太**(衆議院安全保障特別委員会委員長)「『安保特別委』への期待」東京  
 ◇6・5 **法眼晋作**(前国際協力事業団総裁・元外務事務次官)「最近の国際情勢と日本の外交」東京  
 ◇6・26 **ガーリー・G・ウィルズ**(米ジャーナリスト)「米大統領選の行方」東京  
 ◇6・30 **神田禎之**(毎日新聞論説委員)「ダブル選挙とその後の政局」大阪  
 ◇7・24 **大来佐武郎**(前外相)「日本外交の展望」東京  
 ◇9・17 **丹波実**(外務省北米局安全保障課長)「外交と安全保障」東京  
 ◇10・14 **ヌグロホ・ノトスサント**(インドネシア国軍史研究所長)「変化の時代における日本とインドネシア」東京  
 ◇11・6 **村田良平**(外務省中近東アフリカ局長)「イラン・イラク紛争と今後の中東情勢」東京  
 ◇12・3 **内藤昭**(大阪市立大学教授)「中国経済の現状と日中貿易の将来」大阪  
 ◇12・4 **桜内義雄**(自由民主党幹事長)「自民党と今後の政局」東京

## 1981 (昭和56)年

- ◇1・19 木村俊夫(元外相、衆議院議員)「パレスチナ解放機構と中東情勢」東京
- ◇2・12 堀新助(前駐ポーランド大使)「ポーランドをめぐる国際情勢」東京
- ◇3・6 ロバート・ファルツグラフ(タフト大学フレッチャー・スクール教授)「レーガン政権の外交・軍事政策」東京
- ◇4・16 大来佐武郎(前外相・対外経済担当政府代表)「わが国をめぐる国際情勢について——中国問題を含めて」東京
- ◇7・15 ロジャー・スウェアリンゲン(南カリフォルニア大学教授)「シベリア開発とその研究」東京
- ◇9・16 クリストファー・ソーン(サセックス大学教授)「80年代の西洋と極東——史的展望」東京
- ◇9・29 林卓男(政治評論家・第二臨調専門委員)「当面の政治情勢と日本の進路——行革・外交・防衛」大阪
- ◇9・30 林卓男(政治評論家・第二臨調専門委員)「当面の政治情勢と日本の進路」名古屋
- ◇10・26 和田力(元駐エジプト大使)「激動する中東情勢」東京
- ◇11・9 吉田長雄(前駐イスラエル大使)「イスラエルから見た中東の動き」東京
- ◇12・15 柳原義次(毎日新聞論説副委員長)「ポーランド新情勢の背景」大阪

## 1982 (昭和57)年

- ◇2・25 福田赳夫(元首相)「日本をめぐる内外情勢」東京
- ◇3・18 井川克一(前駐仏大使)「ミッテラン政権と社会主義」東京
- ◇4・6 クリストファー・ハウ(ロンドン大学現代中国研究所教授)「中国の人口問題と経済展望」東京
- ◇5・27 サー・ヒュー・コートツ(駐日英国大使)「アジアにおける日英の今日の役割」東京
- ◇6・21 ドナルド・S・ザゴリア(ニューヨーク市立大学院教授)「極東におけるソ連の政策」東京
- ◇7・15 桜内義雄(外相)「ベルサイユ・サミット後の日本外交」東京
- ◇10・8 高橋武彦(元毎日新聞論説主幹・政治評論家)「波乱含みの政局を展望する」大阪
- ◇5・27 伊藤宗一郎(国務大臣・防衛庁長官)「最近の国際情勢と日本の防衛」東京
- ◇11・29 デーヴィス・B・バブロウ(メリーランド大学教授)「米ソ関係史の教訓」東京
- ◇12・9 高橋武彦(元毎日新聞論説主幹・政治評論家)「政局の底流」名古屋

## 1983 (昭和58)年

- ◇2・9 古森義久(毎日新聞前ワシントン特派員)「アメリカ対日政策のホンネと建前」東京
- ◇3・18 岩島久夫(防衛研修所第一戦史研究室長)「最近の国際軍事情勢を読む」東京
- ◇4・8 安倍晋太郎(外相)「これからの日本外交の課題」東京
- ◇6・16 古森義久(毎日新聞編集委員)「レフチェンコ証言をどう見るか」名古屋
- ◇10・3 石橋政嗣(日本社会党委員長)「政局とこれからの社会党」東京
- ◇11・15 谷畑良三(ソ連問題評論家)「ソ連で今、何が起きているか」名古屋
- ◇11・18 小山茂樹(中東経済研究所研究主幹)「石油危機はもう一度来るか」東京
- ◇12・15 松永信雄(外務事務次官)「国際情勢と当面の日本外交の課題」東京

## 1984 (昭和59)年

- ◇2・16 中嶋嶺雄(東京外国語大学教授)「香港、台湾の将来」東京
- ◇3・15 中嶋嶺雄(東京外国語大学教授)「香港、台湾の将来」大阪
- ◇6・25 小和田恒(外務省条約局長)「ソ連社会の現状と展望」東京
- ◇9・17 岡崎久彦(外務省情報調査局長)「日本の国家戦略について」東京

- ◇11・20 玉城素(朝鮮問題評論家)「北朝鮮は開放体制に向かうか」東京
- ◇12・6 天谷直弘(経済外交評論家)「経済摩擦は再燃するか」東京

## 1985 (昭和60)年

- ◇3・19 丁民(中国大使館公使)「中国式社会主義と日中関係」東京
- ◇4・11 大河原良雄(前駐米大使)「レーガン政権と日米関係」東京
- ◇5・22 ベン・アミ・シロニー(ヘブライ大学教授)「日本人とユダヤ人——将来の共通使命」東京
- ◇6・21 三宅和助(外務省中近東アフリカ局長)「最近の中東情勢」東京
- ◇11・28 中嶋嶺雄(東京外国語大学教授)「最近の中国情勢と日中関係」東京

## 1986 (昭和61)年

- ◇3・19 新聞欽哉(日本国際問題研究所理事長)「日ソ外交の展望」東京
- ◇4・23 卜部敏男(フィリピン協会理事長・元駐比大使)「アキノ政権の今後」東京
- ◇7・17 金丸信(自民党幹事長)「衆参同日選挙の結果と今後の政局」東京
- ◇9・17 ニコライ・N・ソロビヨフ(駐日ソ連大使)「ソ連の外交政策」東京

## 1987 (昭和62)年

- ◇1・21 倉成正(外相)「日本外交の今後の課題」東京
- ◇2・16 澄田智(日本銀行総裁)「最近の内外の金融経済情勢について」東京
- ◇3・9 竹内實(京都大学人文科学研究所長)「中国の政変と権力構造」東京
- ◇4・23 藤岡真佐夫(アジア開発銀行総裁)「アジア経済の現状と今後の見通し」東京
- ◇5・11 竹々淳行(内閣官房内閣安全保障室長)「国際化時代における危機管理」東京
- ◇6・15 大来佐武郎(元外相・アジア調査会会長)「最近の世界経済と円高」名古屋
- ◇9・14 マイク・J・マンフィールド(駐日米国大使)「滞日10年 日本とアメリカの今後を考える」東京
- ◇10・19 中江要介(前駐中国大使)「日中関係の現状と将来——駐中国大使から帰国して」東京
- ◇11・17 大来佐武郎(元外相・アジア調査会会長)「来年の世界経済と日本経済」大阪
- ◇12・11 大来佐武郎(元外相・アジア調査会会長)「来年の世界経済と日本経済はどうなるか」東京

## 1988 (昭和63)年

- ◇4・5 小此木政夫(慶應義塾大学教授)「朝鮮半島と日本」東京
- ◇7・7 李源京(駐日韓国大使)「韓国の現状と今後の日韓関係」東京
- ◇9・26 楊振亜(駐日中国大使)「中国の現状と今後の日中関係」東京
- ◇10・11 中嶋嶺雄(東京外国語大学教授)「開放中国の現状と今後」大阪
- ◇11・1 中嶋嶺雄(東京外国語大学教授)「開放中国の現状と将来」名古屋
- ◇11・2 サー・J・ホワイトヘッド(駐日英国大使)「よみがえる英国——日本と英国の今後の役割」東京

## 1989 (昭和64・平成元年)

- ◇1・26 宇野宗佑(外相)「新時代を迎えた日本外交の針路——米新政権誕生、日ソ対話新展開の中で」東京
- ◇3・3 鹿取泰衛(国際交流基金理事長・前駐ソ大使)「今後の日ソ関係をどう見るか」東京
- ◇4・24 伊藤昌哉(政治評論家)「自民党と政治改革の行方」東京
- ◇5・17 馬洪(中国・國務院経済技術社会発展研究センター総幹事)「中国開放経済の現状と今後」東京
- ◇6・26 本野盛幸(前駐仏大使・野村證券常任顧問)「1992年EC統合と日本の対応」東京

- ◇7・19 中嶋嶺雄(東京外国語大学教授)「中国はどこへ行く」東京
- ◇10・12 マイケル・H・アマコスト(駐日米国大使)「アジア・太平洋の安全保障と日米両国の役割」東京
- ◇11・20 ピーター・D・ドライスデール(オーストラリア国立大学教授・豪日研究センター所長)「アジア・太平洋の経済協力と日本の役割」(アジア・太平洋賞記念講演会)東京

## 1990 (平成2年)

- ◇1・16 ボリス・ニコラエビッチ・エリツィン(ソ連共産党中央委員・人民代議員・最高会議議員・前共産党政治局員候補)「ソ連のペレストロイカと日ソ関係」東京
- ◇1・18 ボリス・ニコラエビッチ・エリツィン(ソ連共産党中央委員・人民代議員・最高会議議員・前共産党政治局員候補)「ソ連のペレストロイカと日ソ関係」大阪
- ◇1・22 松永信雄(特命全権大使・前駐米大使)「4年8カ月の駐米大使を終えて」東京
- ◇3・7 寺谷弘壬(青山学院大学教授)「ソ連のペレストロイカはどうなるか」名古屋
- ◇3・7 岩見隆夫(毎日新聞編集委員)「総選挙と今後の政局」名古屋
- ◇3・13 小沢一郎(自由民主党幹事長)「激動の国際情勢と今後の日本」東京
- ◇4・9 袴田茂樹(青山学院大学教授)「激動のソ連、東欧情勢を読む」東京
- ◇5・25 ハンス・ヨアヒム・ハリーヤ(駐日ドイツ連邦共和国大使)「東欧における変革」東京
- ◇6・21 渡辺泰造(外務省外務報道官)「激動の時代における日本外交」東京
- ◇10・26 リュドビク・チジョフ(駐日ソ連大使)「ゴルバチョフ大統領の訪日と今後の日ソ関係」東京
- ◇11・20 三宅和助(中東調査会理事長)「中東危機と日本外交」東京

## 1991 (平成3年)

- ◇2・18 木村汎(北海道大学スラブ研究センター教授)「北方領土問題はどうなるか」大阪
- ◇2・19 木村汎(北海道大学スラブ研究センター教授)「ゴルバチョフ大統領の訪日と北方領土」東京
- ◇2・20 木村汎(北海道大学スラブ研究センター教授)「日ソ首脳会談と領土問題の行方」名古屋
- ◇3・22 大来佐武郎(アジア調査会会長)「湾岸戦争後の世界経済と日本経済はどうなるか」東京
- ◇3・25 渡辺美智雄(自民党元政調会長)「湾岸戦争後の世界と日本」東京
- ◇4・24 袴田茂樹(青山学院大学教授)「日ソ共同声明と今後の日ソ関係」東京
- ◇5・21 海部俊樹(首相)「激動の世界と私が目指す日本外交」東京
- ◇6・14 三重野康(日本銀行総裁)「内外経済環境の変化と今後の課題」東京
- ◇7・12 宮沢喜一(元副総理)「今後のアジア外交と日米関係」大阪
- ◇9・25 袴田茂樹(青山学院大学教授)「政変、後のソ連はどこへ行くのか」東京
- ◇10・25 呉在熙(駐日韓国大使)「国連加盟後の韓半島」東京
- ◇11・20 竹下登(元首相、自由民主党最高顧問)「日本の今後の政治課題」東京

## 1992 (平成4年)

- ◇1・9 緒方貞子(国連難民高等弁務官)「国連難民高等弁務官から見た世界の難民問題」東京
- ◇1・30 中曽根康弘(元首相)「1992年の世界と日本を展望する」東京
- ◇4・30 大河原良雄(元駐米大使)「米大統領選の行方と日米関係」東京
- ◇5・18 山岸章(日本労働組合総連合会会長)「連合が目指す参院選挙」東京
- ◇6・17 明石康(国連事務総長特別代表)「カンボジアPKO大作戦」を指揮して」東京
- ◇7・28 金丸信(自由民主党副総裁)「参院選の結果と今後の政局」東京

- ◇9・29 羽田孜(前蔵相)「日本経済の現状と今後の展望」東京
- ◇10・12 本間長世(東京女子大学教授)「米大統領選の行方と今後日米関係」東京
- ◇11・25 プラカシュ・シャール(駐日インド大使)「変わるインド——現状と将来」東京

## 1993 (平成5年)

- ◇1・18 橋本恕(前駐中国大使)「今後の日中関係」大阪
- ◇1・28 橋本恕(前駐中国大使)「日本と中国」東京
- ◇2・23 橋本恕(前駐中国大使)「日本人と中国人」名古屋
- ◇4・19 小和田恆(外務事務次官)「当面の外交課題」東京
- ◇5・24 香西泰(日本経済研究センター理事長)「円高と今後の日本経済」東京
- ◇6・24 和田一夫(国際流通グループ・ヤオハン代表)「中国の時代がやってくる!」東京
- ◇7・14 小此木政夫(慶應義塾大学教授)「朝鮮半島情勢を読む」東京
- ◇9・21 徐敦信(駐日中国大使)「改革・開放の中国と今後の中日関係」東京
- ◇10・20 孔魯明(駐日韓国大使)「今後の新しい日韓関係と世界」東京
- ◇11・24 河野洋平(自由民主党総裁)「これからの新しい政治」東京

## 1994 (平成6年)

- ◇2・21 松永信雄(外交問題政府代表・元駐米大使・アジア調査会会長)「日米首脳会談後の日米関係」大阪
- ◇2・25 ウォルター・F・モンデール(駐日米国大使)「今後の日米関係」東京
- ◇4・20 松永信雄(アジア調査会会長)「今後の新しい日米関係」東京
- ◇5・13 波多野敬雄(前国連大使)「国連の現状と日本の役割」東京
- ◇6・23 ダト・H・M・カティブ(駐日マレーシア大使)「マレーシアのアジア・太平洋政策」東京
- ◇7・19 鈴木淑夫(野村総合研究所理事長)「日本経済の中期的戦略・戦術は何か」東京
- ◇9・20 猪口邦子(上智大学教授)「アジアの安全保障と日本の防衛力」東京
- ◇10・28 松永信雄(アジア調査会会長)「日米包括経済協議と今後の日米関係」名古屋
- ◇11・9 宮津純一郎(NTT副社長)「マルチメディアの現状と将来」東京
- ◇12・1 河野洋平(副総理・外相)「今後の日米中関係と日本の役割」東京

## 1995 (平成7年)

- ◇1・17 海部俊樹(新進党党首)「新進党が目指す新しい日本政治」東京
- ◇2・15 岩見隆夫(毎日新聞編集局顧問)「今後の政局を読む」大阪
- ◇4・18 加藤シヅエ(日本家族計画連盟会長)「明治・大正・昭和・平成を生き抜いて……現代日本政治家はこれではないのか」東京
- ◇5・18 小淵恵三(自由民主党副総裁)「自民党の政権構想と今後の政局」東京
- ◇6・27 岸井成格(毎日新聞政治部長)「村山内閣と今後の政局の行方」東京
- ◇9・20 金太智(駐日韓国大使)「最近の朝鮮半島情勢と韓日関係」東京
- ◇10・18 ハインリッヒ・ディートリッヒ・ディークマン(駐日ドイツ連邦共和国大使)「ドイツの戦後処理と戦後政治」東京
- ◇11・20 山澤逸平(APEC賢人会議日本代表、一橋大学教授)「APEC大阪宣言と今後のアジア太平洋」大阪
- ◇11・24 武村正義(新党さきがけ代表、蔵相)「今後の日本経済と政局」東京

## 1996 (平成8年)

- ◇1・16 田中直毅(経済評論家)「1996年の世界と日本の経済」東京
- ◇2・26 アシュトン・T・カルバート(駐日オーストラリア大

- 使)「新しいオーストラリアと日本及びアジアの関係」東京  
 ◇4・18 **加藤紘一**(自民党幹事長)「今後の日米関係と政局の展望」東京  
 ◇5・15 **小島朋之**(慶應義塾大学教授)「台湾総統選挙後の中台関係と香港返還を読む」東京  
 ◇6・24 **秋野豊**(筑波大学助教授)「日露関係と大統領選後のロシアを読む」東京  
 ◇7・12 **池田行彦**(外相)「今後の日本外交と世界」東京  
 ◇9・20 **梶山静六**(内閣官房長官)「今後の日本の政治の課題」東京  
 ◇10・11 **栗山尚一**(前駐米大使・外務省顧問)「米大統領選と今後の日米関係」名古屋  
 ◇10・25 **宮崎勇**(大和総研特別顧問・元経済企画庁長官)「今後の日本経済と景気動向を読む」東京  
 ◇11・15 **栗山尚一**(前駐米大使・外務省顧問)「米大統領戦後の日米関係とアジア・太平洋」東京  
 ◇11・22 **栗山尚一**(前駐米大使・外務省顧問)「米大統領戦後の日米関係とアジア・太平洋」大阪

### 1997 (平成9年)

- ◇1・21 **アレクサンドル・パノフ**(駐日ロシア大使)「21世紀に向かう国際情勢と今後の日露関係」東京  
 ◇4・8 **朴燦鐘**(新韓国党常任顧問)「朝鮮半島情勢と今後の日韓関係」東京  
 ◇5・26 **菅直人**(民主党代表)「新しい日本政治をどう切り開くか」東京  
 ◇7・16 **中嶋嶺雄**(東京外国語大学学長)「香港返還後のアジアと日本」東京  
 ◇9・12 **福川伸次**(電通総研社長・同研究所長)「日本経済の構造大改革の問題点」東京  
 ◇10・14 **水野清**(行政改革会議事務局長・首相補佐官)「行財政改革の今後の展開」東京  
 ◇11・21 **ケント・E・カルダー**(駐日米国大使特別補佐官)「アジアのエネルギー危機と日本の役割」(アジア・太平洋賞記念講演会)大阪  
 ◇12・1 **不破哲三**(日本共産党幹部会委員長)「世界情勢と日本共産党の今後」東京

### 1998 (平成10年)

- ◇1・23 **トーマス・S・フォーリー**(駐日米国大使)「アジア・太平洋時代の日米関係」東京  
 ◇4・16 **柳井俊二**(外務事務次官)「日本外交の現状と課題」東京  
 ◇5・25 **山崎拓**(自由民主党政務調査会長)「日本の危機をどう克服するか」東京  
 ◇9・7 **深谷隆司**(自由民主党総務会長)「今後の政局と自民党」東京  
 ◇11・13 **金爽圭**(駐日韓国大使)「金大統領訪日の成果と21世紀の日韓関係」東京  
 ◇12・17 **渡部恒三**(衆議院副議長)「政界を斬る——その現状と将来」東京

### 1999 (平成11年)

- ◇2・1 **陳健**(駐日中国大使)「江沢民国家主席訪日後の日中関係」東京  
 ◇4・13 **柳沢伯夫**(国務大臣・金融再生委員会委員長)「公的資金注入後の金融行政」東京  
 ◇5・27 **フランク・エルベ**(駐日ドイツ連邦共和国大使)「ヨーロッパ統合の業績と課題」東京  
 ◇9・14 **高村正彦**(外相)「当面する日本外交の課題」東京  
 ◇10・13 **渡辺泰造**(前駐インドネシア大使)「東ティモール独立とインドネシア情勢」東京  
 ◇11・30 **野村進**(ノンフィクションライター)「アジアに生きる新しい日本人」(アジア・太平洋賞記念講演会)大阪  
 ◇12・9 **神崎武法**(公明党代表)「三党連立政治と公明党の対応」東京

### 2000 (平成12年)

- ◇1・27 **中曽根康弘**(元首相)「歴史の分水嶺に立って」東京  
 ◇4・18 **斉藤邦彦**(前駐米大使)「日米関係の現状と将来」東京  
 ◇7・14 **羅福全**(台北駐日経済文化代表處代表)「陳総統の時代と日・米・中」東京

- ◇9・19 **亀井静香**(自由民主党政務調査会長)「21世紀の政策課題と自民党」東京  
 ◇11・13 **竹内宏**(元長銀総研理事長)「21世紀の日本経済の課題」東京  
 ◇11・21 **秋尾沙戸子**(ノンフィクション作家)「『アジアの人々はなぜたくましいのか』——そのエナジーの源を探る」(アジア・太平洋賞記念講演会)大阪  
 ◇12・7 **山崎隆一郎**(外務省外務報道官)「米国大統領選挙と今後の日米関係」東京

### 2001 (平成13年)

- ◇2・22 **熊谷弘**(民主党幹事長代理)「2001年の政治展望と課題」東京  
 ◇3・30 **渡辺喜美**(自民党衆議院議員)「政治をどう再生させるか」東京  
 ◇4・18 **堀内光雄**(自民党総務会長)「日本経済の再生のために」東京  
 ◇6・14 **山崎拓**(自民党幹事長)「小泉政権の発足と自民党」東京  
 ◇7・13 **立川敬二**(NTTドコモ代表取締役社長)「NTTドコモのモバイル戦略」東京  
 ◇9・21 **石原伸晃**(行政改革・規制改革担当相)「構造改革をどう進めるか」東京  
 ◇10・15 **山内昌之**(東京大学大学院総合文化研究科教授)「『イスラムとアメリカ』再考」東京  
 ◇11・13 **桜井啓子**(学習院女子大学助教授)「ヴェールの向こう側——現代イランの女性たち」(アジア・太平洋賞記念講演会)大阪  
 ◇12・6 **ハワード・H・ベーカー**(駐日米国大使)「『9月11日以後』の日米関係」東京

### 2002 (平成14年)

- ◇3・25 **岸井成格**(毎日新聞役員待遇編集委員)「2002年小泉政局のゆくえ」東京  
 ◇4・18 **鳩山由紀夫**(民主党代表)「民主党の政権戦略」東京  
 ◇5・20 **藤井裕久**(自由党幹事長)「低迷する政治・経済をどう打破するか」東京  
 ◇7・2 **麻生太郎**(自由民主党政務調査会長)「デフレ不況からの脱却のために」東京  
 ◇9・26 **重村智計**(拓殖大学教授)「小泉首相訪朝の深層」東京  
 ◇11・28 **野田毅**(保守党党首)「日本再生の道筋」東京  
 ◇12・2 **木村汎**(拓殖大学海外事情研究所教授)「2004年に動く? ——プーチン大統領の対日戦略と今後の日露関係」(アジア・太平洋賞記念講演会)大阪

### 2003 (平成15年)

- ◇1・31 **安倍晋三**(内閣官房副長官)「当面の政治・外交にどう取り組むか」東京  
 ◇3・19 **河野洋平**(元外相)「昨今の国際情勢について」東京  
 ◇6・13 **谷垣禎一**(産業再生機構担当大臣)「わが国の産業再生について」東京  
 ◇7・23 **アレクサンドル・パノフ**(駐日ロシア大使)「プーチン大統領下の今後の日露関係」東京  
 ◇9・26 **福井俊彦**(日本銀行総裁)「日本経済とアジア」東京  
 ◇11・26 **由井常彦**(日本経営史研究所会長)「日本企業の国際競争力」東京  
 ◇12・2 **酒井啓子**(アジア経済研究所地域研究センター参事)「イラク情勢はどうなるか」(アジア・太平洋賞記念講演会)大阪  
 ◇12・9 **趙世衡**(駐日韓国大使)「変化する東北アジア地域と韓日関係の未来」東京

### 2004 (平成16年)

- ◇3・2 **ナンシー・ランドン・カセバウム・ベーカー**(駐日米国大使夫人)「アメリカと日本——その現状と将来」東京  
 ◇4・21 **武大偉**(駐日中国大使)「アジアの振興と中国・日本の責任」東京  
 ◇6・4 **酒井啓子**(アジア経済研究所地域研究センター参事)「イラクはどうなるか」東京

- ◇6・21 椎名武雄(日本IBM最高顧問)「危機と危機感」東京
- ◇9・9 岡田克也(民主党代表)「民主党が目指すもの」東京
- ◇10・27 A・P・ロシュコフ(駐日ロシア連邦大使)「プーチン大統領の訪日と今後の日露関係」東京
- ◇12・6 志方俊之(帝京大学教授)「新しい脅威と日本の安全保障」東京
- ◇12・13 小島真(拓殖大学教授)「インド経済拡大の原動力と日本の課題」〈アジア・太平洋賞記念講演会〉大阪

#### 2005 (平成17年)

- ◇1・21 川口順子(首相補佐官)「2005年日本の外交課題」東京
- ◇4・4 与謝野馨(自民党政調会長)「当面する政策課題」東京
- ◇5・16 許世楷(台北駐日経済文化代表處代表)「東アジアの平和と日台関係」東京
- ◇7・14 安倍晋三(自民党幹事長代理)「日本の国家戦略」東京
- ◇9・20 岩見隆夫(毎日新聞特別顧問)「衆院選結果と政局展望」東京
- ◇10・31 羅鍾一(駐日韓国大使)「東アジア地域協力と日韓関係」東京
- ◇11・30 谷内正太郎(外務事務次官)「日本外交の主要課題と今後の展望」東京
- ◇12・15 中島岳志(京都大学人文科学研究所研究員)「R・B・ボースの生涯と日本のアジア主義」〈アジア・太平洋賞記念講演会〉大阪
- ◇12・19 鳩山由紀夫(民主党幹事長)「民主党再生への道」東京

#### 2006 (平成18年)

- ◇3・17 J・トーマス・シーファー(駐日米国大使)「日米経済パートナーシップ」東京
- ◇5・9 王毅(駐日中国大使)「アジアの将来および日中両国の役割」東京
- ◇7・7 町村信孝(前外相)「体験の日本外交」東京
- ◇10・30 中川秀直(自民党幹事長)「安倍新体制と日本の進路」東京
- ◇11・27 太田昭宏(公明党代表)「当面の政策課題と公明党の対応」東京
- ◇12・4 阿南惟茂(前駐中国大使)「中国の台頭と日本の対応」東京
- ◇12・5 羽田正(東京大学東洋文化研究所教授)、田中明彦「イスラム世界の創造と新しい世界史」〈アジア・太平洋賞記念講演会〉大阪

#### 2007 (平成19年)

- ◇3・1 五百旗頭真(防衛大学校校長)「激動の世界と日本」東京
- ◇5・9 二階俊博(自民党国会対策委員長)「日中国交正常化35周年に思う」東京
- ◇6・7 グレアム・ホルブルック・フライ(駐日英国大使)「ヨーロッパとアジア—島国の視点から」東京
- ◇7・30 岸井成格(毎日新聞特別編集委員)「参院選の結果と政局の行方」東京
- ◇10・26 金子秀敏(毎日新聞論説室専門編集委員)「胡锦涛新体制の行方を読む」東京
- ◇11・7 中島岳志(北海道大学准教授)「保守とナショナリズム」東京
- ◇12・11 上村幸治(獨協大学教授)「超巨大国家中国の台頭と迷走が意味するもの」〈アジア・太平洋賞記念講演会〉大阪

#### 2008 (平成20年)

- ◇2・13 ミハイル・ペールイ(駐日ロシア連邦大使)「アジアにおけるロシアの外交指針と日露関係」東京
- ◇4・24 ジョゼフ・キャロン(駐日カナダ大使)「日本・カナダ関係のこれから」東京
- ◇6・17 高村正彦(外相)「北海道洞爺湖サミットにおいて日本が目指す成果」東京
- ◇9・11 加藤良三(前駐米大使・プロ野球コミッショナー)「米大統領選と日米関係」東京
- ◇11・10 保利耕輔(自民党政務調査会長)「日中国交回復

と保利書簡」東京

- ◇11・26 前原誠司(民主党副代表)「日本の安全保障」東京
- ◇12・16 田中修(財務省財務総合政策研究所研究部長)「中国経済の行方」〈アジア・太平洋賞記念講演会〉大阪

#### 2009 (平成21年)

- ◇3・30 権哲賢(駐日韓国大使)「東アジアの未来と韓日の役割」東京
- ◇4・27 園田博之(自民党政調会長代理)「経済政策などについて」東京
- ◇5・27 ディビッド・ウォレン(駐日英国大使)「低炭素経済回復」東京
- ◇8・4 河野洋平(前衆議院議長)「核廃絶をめぐる昨今の動き」東京
- ◇9・10 崔天凱(駐日中国大使)「新中国建国60年と日中関係」東京
- ◇11・9 内海孚(日本格付研究所社長・元財務官)「今後の世界経済の展望」東京
- ◇12・3 馮寄台(台北駐日経済文化代表處代表)「台湾・日本関係——この1年」東京

#### 2010 (平成22年)

- ◇4・14 石破茂(自民党政調会長)「現下の政局について」東京
- ◇5・10 直嶋正行(経済産業相)「今後の経済運営について」東京
- ◇8・17 荒井聰(国家戦略・経済財政政策担当相)「菅政権の国家戦略について」東京
- ◇10・6 岡田克也(民主党幹事長)「民主党政権の課題と展望」東京
- ◇11・3 坂東賢治(毎日新聞社外信部長)「APECの歩みと今後の協力関係」横浜
- ◇11・30 ジョン・V・ルース(駐日米国大使)〈非公開〉東京

#### 2011 (平成23年)

- ◇2・21 福田康夫(元首相)「今後の日中関係について」東京
- ◇4・25 山内昌之(東京大学教授)「危機のリーダーシップ——中東激変と大震災・原発事故の教訓」東京
- ◇6・27 林芳正(元防衛相)「3・11後の日本政治」東京
- ◇8・30 申珪秀(駐日韓国大使)「21世紀における新たな韓日関係のパラダイムを求めて」東京
- ◇10・14 フォルカー・シュタンツェル(駐日ドイツ大使)「欧州から見た3.11後の東アジア情勢」東京
- ◇11・21 岸井成格(毎日新聞社主筆)「野田政権と混迷政治のゆくえ」／服部龍二(中央大学教授)「日中国交正常化——田中角栄、大平正芳、官僚たちの挑戦」〈アジア・太平洋賞記念講演会〉静岡
- ◇12・21 前原誠司(自民党政調会長)「日本外交の課題と展望」東京

#### 2012 (平成24年)

- ◇2・16 田波耕治(元大蔵事務次官)「通貨不安と日本国債」東京
- ◇4・2 谷垣禎一(自由民主党総裁)「日本政治の針路と課題」東京
- ◇6・21 程永華(駐日中国大使)「国交正常化40年と今後の日中関係の課題」東京
- ◇9・24 山口廣秀(日本銀行副総裁)「内外経済の下振れと金融緩和」東京
- ◇11・19 藤井裕久(元財務相)「日本政治の現状とあるべき姿」東京
- ◇12・13 佐藤百合(日本貿易振興機構〈ジェトロ〉アジア経済研究所地域研究センター長)「経済大国インドネシア——現状・展望・日本との関係」／茅原郁生(拓殖大学名誉教授)「軍事大国化した中国にどう向き合うか」〈アジア・太平洋賞記念講演会〉静岡

#### 2013 (平成25年)

- ◇2・19 丹羽宇一郎(前駐中国大使)「前駐中国大使が見た中国と日中外交」東京
- ◇4・15 野田毅(日中協会会長・自民党衆議院議員)「今後の日中関係」東京

- ◇6・24 田中均(元外務審議官)「世界情勢の変化と日本外交」東京
- ◇10・10 天野之弥(国際原子力機関(IAEA)事務局長)「原子力の国際情勢と日本への期待」東京
- ◇12・19 額賀福志郎(自民党衆議院議員)「安倍政権の2014年の課題」東京

#### 2014 (平成26)年

- ◇1・17 岸田文雄(外相)「2014年の日本外交」東京
- ◇3・24 金子秀敏(毎日新聞論説室専門編集委員)「中国全人代と今後の日中関係」東京
- ◇5・29 河野洋平(元衆議院議長)「現在の日中関係を考える」東京
- ◇6・23 菅義偉(内閣官房長官)「安倍政権の目指す政治」東京
- ◇8・4 小野寺五典(防衛相)「わが国の防衛・安全保障政策」東京
- ◇9・22 福田康夫(元首相)「アジアの中の日本」東京

#### 2015 (平成27)年

- ◇1・16 石破茂(地方創生相)「地方から創生する我が国の未来」東京
- ◇2・25 二階俊博(自民党総務会長)「国土強靱化 海を渡る」東京
- ◇4・28 ブルース・ミラー(駐日オーストラリア大使)「日豪関係の深化に向けて」東京
- ◇6・10 馬立誠(元人民日報論説委員)「憎しみに未来はない—中日関係新思考—」東京
- ◇7・23 舩添要一(東京都知事)「『世界一の都市・東京』の実現を目指して」東京
- ◇9・28 宮本雄二(元駐中国大使)「中国の将来と日中関係」東京

#### 2016 (平成28)年

- ◇12・21 茂木敏充(自民党選挙対策委員長)「日本経済と国政の動向」東京
- ◇2・19 山口那津男(公明党代表)「自公連立政権における公明党の役割」東京
- ◇2・22 ロー・ダニエル(朝鮮半島政経塾長)「熾烈さを増す米国での日中韓ロビ合戦」東京
- ◇4・6 高村正彦(自由民主党副総裁)「平和安全法制について」東京
- ◇7・8 及川正也(毎日新聞社論説委員)「どうなるアメリカ大統領選挙—日米、世界は?—」東京
- ◇7・13 五百旗頭真(アジア調査会長)、福田康夫(元首相)「乱世の世界と日本—21世紀をどう生きるか」東京
- ◇9・27 岸井成格(毎日新聞社特別編集委員)「歴史の転換期と政局の行方」東京
- ◇11・16 野田佳彦(民進党幹事長・前首相)「内外情勢について」東京

#### 2017 (平成29)年

- ◇2・15 久保文明(東京大学大学院法学政治学研究科教授)、五百旗頭真(アジア調査会長)「トランプ政権誕生の衝撃とその含意」東京
- ◇3・14 澤田克己(毎日新聞社論説委員)「不透明感増す朝鮮半島情勢」東京
- ◇4・24 中谷巖(三菱UFJリサーチ&コンサルティング理事)、五百旗頭真(アジア調査会長)「トランプ政権後の世界経済と日本」東京
- ◇5・31 河野洋平(元衆議院議長・日本国際貿易促進協会会長)「最近の日中関係について」東京
- ◇9・22 小野寺五典(防衛相)「わが国の安全保障について」東京

#### 2018 (平成30)年

- ◇2・21 杉山晋輔(駐米大使)「日本外交の課題と今後の課題」東京
- ◇5・17 小此木政夫(慶應義塾大学名誉教授)「北朝鮮核危機とサミット外交」東京
- ◇7・27 田中明彦(政策研究大学院大学長)「東アジア国際情勢と世界」東京
- ◇10・26 小和田恆(前国際司法裁判所判事)「国際紛争と

国際裁判」東京

#### 2019 (平成31・令和元年)

- ◇3・1 五百旗頭真(アジア調査会会長)「平成時代」東京
- ◇5・15 山崎正和(劇作家・評論家)「歴史の中の平成日本」東京
- ◇9・10 孔絃佑(駐日中国大使)「新しい時代にふさわしい中日関係に向けて」東京
- ◇11・21 エズラ・ヴォーゲル(ハーバード大学名誉教授)「米中対立の中の日中関係」東京

#### 2020 (令和2)年

- ◇2・25 鶴岡公二(前駐英大使)「民主主義の試練、プレグジットを考える」東京
- ◇7・28 五百旗頭真(アジア調査会会長)「コロナパンデミック 世界と日本」東京
- ◇10・20 遠藤乾(北海道大公共政策大学院長)「コロナ危機後の欧州と世界」東京

#### 2021 (令和3)年

- ◇2・24 久保文明(東京大学大学院法学政治学研究科教授)「米大統領選挙の統括とバイデン政権の今後」東京
- ◇6・10 高原明生(東京大公共政策大学院教授)「建党100周年を迎える習近平政権の動向」オンライン
- ◇7・1 押谷仁(東北大学大学院教授)「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)への日本と世界の対応」東京
- ◇9・8 松井聡(毎日新聞ニューデリー特派員)「タリバン政権掌握の衝撃とアフガニスタンの将来—現地報告」オンライン
- ◇11・15 渡辺将人(北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院准教授)「バイデン時代のアメリカ」オンライン

#### 2022 (令和4)年

- ◇3・28 小泉悠(東京大学先端科学技術研究センター専任講師)「ウクライナ侵襲」東京
- ◇10・4 君塚直隆(関東学院大学教授)「エリザベス女王の70年—21世紀のイギリス王室」オンライン
- ◇12・2 吉崎達彦(双日総合研究所チーフエコノミスト)「今後の米中関係と貿易自由化の行方」東京

#### 2023 (令和5)年

- ◇2・7 石井正文(前インドネシア大使)「東南アジア諸国とどう向き合うか—中国+『踏み絵を踏まない分断』への対処」東京
- ◇2・28 岡本隆司(京都府立大学教授)「歴史から読み解く現代中国」東京
- ◇4・28 加茂具樹(慶應義塾大学総合政策学部長・教授)「大国化、集権化する中国とどう向き合うか」東京
- ◇7・27 木宮正史(東京大学大学院総合文化研究科教授)「尹錫悦政権の「新外交」と朝鮮半島を巡る国際関係」東京
- ◇11・6 北岡伸一(東京大学名誉教授)「国連改革について」東京
- ◇12・20 国分良成(前防衛大学校長)「複雑化する中国情勢と日米中関係」東京

#### 2024 (令和6)年

- ◇2・2 門間理良(拓殖大学海外事情研究所教授)「台湾総統選挙後の情報分析」東京
- ◇4・23 渡辺博史(国際通貨研究所理事長)「世界の地政学から日本経済のリスクを考える」東京
- ◇7・23 岡田美保(防衛大学校教授)「プーチン再選後のロシア外交」東京
- ◇9・19 国分良成(アジア調査会会長)「アジア調査会会長に就任して—中国研究50年」東京
- ◇10・9 島田敏男(元NHK解説副委員長・政治ジャーナリスト)「ここから1年 政治決戦の行方を展望する」東京
- ◇11・20 久保文明(防衛大学校長・東京大学名誉教授)「米大統領選の分析と新政権の展望」東京

# 歴代会長



初代会長  
**吉田 茂氏**  
(元首相)  
在職期間  
1964年9月～1967年10月



二代会長  
**東畑 精一氏**  
(元東京大学教授)  
在職期間  
1968年2月～1983年5月



三代会長  
**太田 一郎氏**  
(元外務事務次官)  
在職期間  
1983年5月～1986年5月



四代会長  
**大来 佐武郎氏**  
(元外相)  
在職期間  
1986年5月～1993年2月



五代会長  
**松永 信雄氏**  
(元駐米大使)  
在職期間  
1993年5月～2006年5月



六代会長  
**栗山 尚一氏**  
(元駐米大使)  
在職期間  
2006年5月～2015年4月



七代会長  
**北村 正任氏**  
(元毎日新聞社社長)  
在職期間  
2015年5月～2016年5月



八代会長  
**五百旗頭 真氏**  
(元防衛大学校長)  
在職期間  
2016年5月～2024年3月



九代会長  
**国分 良成氏**  
(元防衛大学校長)  
在職期間  
2024年5月～

## 御挨拶

第9代アジア調査会会長 国分良成

2024年9月、一般社団法人アジア調査会は60周年を迎えました。今日までの長きにわたって本調査会が存続できたことは、会員の皆様方をはじめ多くの関係者の方々の御協力と御尽力のおかげです。ここに現会長として改めて御礼を申し上げます。

本調査会が発足した1964年9月は第1回東京オリンピックを目前に控え、日本は高度経済成長の真ただ中にありました。発会式には吉田茂初代会長をはじめ池田勇人総理も参列され、本調査会の設立を称えるとともに、世界に台頭しはじめた日本が、戦前の反省を踏まえ、いかにアジアに向き合うかを考える場としての役割を期待する旨を述べられました。特に国交のない中国との関係を今後どうするか、これが中心課題であるとも両者は語られました。

戦後、日米同盟を柱に西側諸国と連携し国際秩序づくりに率先してきた日本は、今では内外ともに試練の時を迎えています。過去の実績を踏まえつつも、日本は成長と危機の同居するこのアジア太平洋地域の秩序づくりにいかに参画すべきなのか、そこには広く深い思索と斬新な知恵が必要であります。本調査会に求められる存在意義はまさにそこにあるのです。

## 一般社団法人 アジア調査会

The Asian Affairs Research Council

〒100-8051 東京都千代田区一ツ橋1-1-1 毎日新聞社内

電話 03 (3213) 2697 FAX 03 (3214) 5975

Email : ajicho@aac.or.jp